週刊 YEAR BOOK

日録20世紀

1901
明治34年

10|13
平成10年10月13日発行
(毎週1回火曜日発行)
第2巻第38号 通巻81号
平成10年7月31日第三種郵便物認可
¥560
講談社

与謝野晶子『みだれ髪』にこめた"愛と情熱"
「ヒーロー」か「天狗」か! 明治のタバコ大戦争
レントゲンなど6人に第1回ノーベル賞授与!

田中正造、天皇に直訴!

「人民に、かかる害悪を与えているのが農商務大臣には見えないのか！」

美濃紙六枚に綴られた足尾鉱毒汚染の実態

田中正造決起、天皇に直訴状！

▲明治34年、直訴直前の田中正造（前列左から二人目）と、鉱毒被害の調査に訪れた人たち。佐野町（現・佐野市）駅前にて。

◀水害に見舞われた足利郡の農家。渡良瀬川の氾濫で、沿岸の農家はたびたび被害を受けた。これは、足尾銅山の燃料や杭材用に山林を乱伐したのが原因だった。

佐野市郷土博物館提供

▲田中正造の秘書だった左部（さとり）彦次郎。東京専門学校在学中に足尾鉱毒問題に触れ、被害地に移住、反対運動の理論的指導者として活躍した。

◎表紙　生涯を通して足尾鉱毒問題に取り組んだ田中正造。明治37年7月、日露戦争の最中、谷中村に移り住んだ。

佐野市郷土博物館提供

▲直訴当時の田中正造。衆議院議員として足尾鉱毒事件を追及したが、議会における闘いの不毛を見きわめ、直訴を決行する。

明治後期、栃木県・足尾銅山から流出した有毒廃棄物が、渡良瀬川流域を汚染した。川では魚が死に絶え、田畑は枯れ野と化し、鉱毒病は漁師や農民のみならず老人や幼児も冒したのである。明治三四年一二月一〇日の、田中正造による天皇直訴事件は、鉱毒の存在を認めようとしない国家への最後の抗議行動だった。

幸徳秋水が手助け 決死の直訴は失敗

「お願いがございますッ！」

明治三四年一二月一〇日午前一一時すぎ、第一六回議会の開院式からの帰路、桜田門近くの衆議院議長官舎脇を通る明治天皇の馬車に駆け寄る老人がいた。

謹奏

田中正造

▲天皇への直訴状の上書き。

▲明治35年刊行の岩崎徂堂『田中正造奇行談』に掲載された、田中正造の直訴の情景。当日の正造のいでたちは、五つ紋の羽織に木綿の袴だったという。

黒の紋服、袴に白髪の長髪をたばねた田中正造（六〇）は、直訴状を高くささげていた。騎兵の一人が、とっさに馬の向きを変え、槍を持って彼をさえぎる。

正造はかわそうとしてつまずき、倒れこんだ。そのはずみで、騎兵は馬もろとも転倒。すぐに警備の巡査二人が駆けつけ、彼を取り押さえた。何事もなかったかのように、天皇の行列はその場を走り去っていく——。「草莽の微臣田中正造、誠恐誠惶頓首頓首、謹デ奏ス」で始まる直訴状には、足尾銅山による渡良瀬川沿岸の鉱毒汚染の実態が美濃紙六枚にわたって綴られ、国家に被害地の復旧を求める内容だった。

毎日新聞社の記者で、足尾銅山を取材した社会主義者の木下尚江（三二）は、この日の様子を次のように記している。

「『君らに叱られに来た』。こう言うて（編集室に来た）幸徳は恐縮している。（中略）幸徳はおもむろに直訴状執筆の始末を語った。昨夜、翁は麻布宮村町の幸徳の門を叩き起こした。それから、鉱毒事件に対する最後の道として、身を棄てて直訴に及ぶの苦衷を物語り（中略）『直訴状など誰だって嫌だ。けれど、多年の苦闘に疲れ果てた、あの老体を見ては、厭だと言うて振り切ることができるか』。こう言いながら幸徳は、僕を睨んだ」（木下尚江『臨終の田中正造』）

直訴状は、後に「大逆事件」（明治四三年）で死刑になる幸徳秋水（三〇）が、正造に頼まれ代筆したものだった。

正造は議会での鉱毒事件解決に望みを失い、衆議院議員を辞職したうえで、直訴という決死の挙に出たのだが、麴町警察署に連行された後、あっけなく釈放される。政府が彼を狂人扱いし、直訴の罪を不問にしたからだった。

渡良瀬川から約八キロ離れた栃木県の小中村（現・佐野市）の名主の家に生まれ、明治二三年から一〇年間にわたる国会議員時代には、政府を徹底追及したことで名をはせた正造は、『政府の野郎、この田中を狂人にしてしまいやがった』と言って、笑うに笑われず、怒るに怒られず、

▲田中正造夫人のカツ子。16歳で正造に嫁ぎ、生涯、支え続けた。

「人民に、かかる害悪を与えているのが農商務大臣には見えないのか！」
美濃紙6枚に綴られた足尾鉱毒汚染の実態
田中正造決起、天皇に直訴状！

その奸知に驚嘆」（『臨終の田中正造』）していたという。

脅迫、懐柔、買収にも丸腰で対抗した正造

足尾銅山が急発展をとげたのは、明治一〇年に貿易商の古河市兵衛（当時・四五歳）が四万八〇〇〇円（たとえば、当時、うな重が一杯二〇銭だった）で買収してからである。正造の〝不倶戴天〟の敵となる古河は、銅山に近代設備を導入して産出量を増加させた。一八九〇年代には、足尾産の銅が日本の銅産出量の四八パーセントを占めるまでになっていた。

「富国強兵政策を選んだ明治政府にとって、電気通信材料としての銅は最先端の軍需物質であるとともに、生糸に次いで外貨を稼げる輸出品でした。積極的な経営姿勢で銅の生産第一位になった足尾銅山は、生産にともなう廃棄物、ガスの渡良瀬川への排出にはまったく注意を払わず、政府もこれを放置したのです」

と、宇井純・沖縄大学教授は語る。

こうして、当時、栃木県選出の立憲改進党代議士・田中正造が立ちあがったのだ。「人民に、かかる害悪を与えているのが、農商務大臣には見えないのか！」——正造は、明治二四年一二月の第二帝国議会で陸奥宗光農商務大臣（当時・四七歳）を攻撃。それを皮切りに、その後の半生を鉱毒公害と闘うことになる。ちなみに、「原因確実ならず」と答弁を続けた陸奥大臣は、その次男・潤吉を古河の養子にした間柄だった。

正造は、国会で政府を非難しては足尾問題に人々の注目を向けさせたが、鉱毒事件は拡大するばかりだった。しかし、正造の直訴は在京大学生の猛烈な鉱毒反対運動を呼び起こす。やむなく、政府は翌明治三五年秋、谷中村を遊水池にして鉱毒水を溜めこむ構想を打ち出す。鉱毒問題を治水問題にすりかえたのである。

明治三七年、住民と運命をともにする覚悟で谷中村に移り住んだ正造は、栃木県が送りこんだ工作員による脅迫、懐柔、買収とあらゆる排除策に抵抗し続けた。

「正造は住民の意思を無視して古来の自治村をつぶすことができないと考えていたから、進んで谷中村を護る闘いに乗り出しました。実は、『遊水池案』は洪水（鉱毒水）防止に効果がなかったが、渡良瀬川上流の被害民には鉱毒解決の錯覚を与えて、このため、上流と下流との被害民の間に深刻な対立が生じます。一方、谷中村の中にも立ち去る人々（移住民）が続いた。村の自壊です」

田中正造研究にたずさわる作家の日向康氏は、そう語る。明治四〇年七月、谷中村は無惨にも強制破壊される。その後、一九戸の村民は洪水地に仮小屋を建て、栃木県を相手に訴訟を開始した。

「強制破壊後は谷中撤退もやむなしと考えた正造でしたが、残留民の抵抗の姿に心を打たれる。先に正造はキリスト教に触れていましたが、この残留民からあらためて人間の尊厳を悟ります。徹底的に聖書と憲法を読み、新境地を開いた正造は、なおも村復活の闘いを続けます」（日向氏）

こうして抵抗を続けた正造だが、大正二年九月四日に胃癌で没する。享年七三だった。その四年後、残留民もついに谷中村から追い払われた。正造の生涯をかえりみて、日向氏は言う。

「『人は予を狭量なりと云う。予をして狭量ならざれば、正造はなきなり。狭くして漸く在するのみ』という言葉を真に実践した正造は、その激しい生き方のため、現代にいたるまで人の理解を遠ざけました。しかし、正造に学ぶと、日本の近代以降が見えてきます。現憲法の意味も教えてくれるのです」

企業と癒着して自然を壊す政治に対し、庶民がみずからを守る戦いに最期まで献身した正造。その激烈な生涯は、現代の日本人にも多くの教訓を残している。

明治からの公害略年表

明治時代の公害は、その多くが鉱山と関連する問題だった。欧米列強のような資本主義国家をめざす日本にとって、江戸時代から幕府や諸藩の後押しで進められてきた鉱山業は、とりあえず、とっかかりになる産業だったからである。それも、明治中期になると、セメント業や化学工業が発達し始め、工場による公害が問題になり始める。

明治7年　福島県の半田銀山山麓で、鉱山の排水による稲苗被害が発生。

明治8年　愛媛県の千原鉱山で鉱毒問題が発生。

明治13年　愛媛県で、絵具の緑青着色団子で中毒事件が発生（被害者は約200人）。

明治40年　別子銅山の四阪島製錬所から亜硫酸ガス被害が発生。

大正5年　鈴木商店（現・味の素）の生産増とともに、塩酸ガス流出による農作物被害が相次ぐ。

大正15年　北海道の浅野セメント工場が、セメント粉塵で農業被害を引き起こす。

昭和4年　川崎市の海岸で三井物産の重油船が重油流出。浅草海苔が全滅する。

昭和12年　群馬県の日本亜鉛電解工場で、操業第1日より有害ガス発生。

昭和17年　熊本県水俣地区で、すでに水俣病と疑われる患者が発生。

▲当時の足尾銅山。明治10年、古河市兵衛の所有となり、新採掘技術の導入などで、産額が増大。

▶銅山の廃石に含まれている、硫酸銅などの毒物に汚染された土の除去作業。足利郡久野村にて。

「やは肌のあつき血汐にふれも見で」鉄幹のもとに走り、衝撃の歌集刊行！ 与謝野晶子『みだれ髪』にこめた〝愛と情熱〟

▲明治34年9月、晶子と与謝野鉄幹は、木村鷹太郎の媒酌で結婚。その後、まもなく頃の二人。

◀神戸における新詩社同人。後列左端が与謝野鉄幹。「明星」第8号(明治33年11月号)に掲載された。

封建的な道徳観を無視し、自我を主張して愛や性を奔放に歌った鳳（与謝野）晶子の歌集『みだれ髪』は、刊行当初から若者たちの大きな支持を得た。妻子ある与謝野鉄幹との恋、故郷を捨てての上京など、その生き方も歌同様に情熱的であった。かくして晶子は明星派の女王となり、後に「君死にたまふこと勿れ」などの名作を生むこととなる。

文壇に大きな衝撃 若者は圧倒的支持

明治三四年八月一五日、鳳晶子（二二）の処女歌集『みだれ髪』が刊行された。発行は与謝野鉄幹（二八）が短歌改革のために興した東京新詩社、発売は伊藤文友館であった。晶子の上京が六月上旬（諸説あるが、ここでは一〇日説をとる）であったことを考えると、画期的な早さでの刊行と言えよう。

白馬会の新進画家・藤島武二（三三）の手になる表紙絵も画期的だった。ハートの中にみだれ髪の女性の顔をおさめ、そのハートに刺さった矢が三輪の花を散らすという大胆なデザインである。歌集の判型は新書判を縦長にした三六判で、本文一三八ページ、定価は三五銭であった。

しかし、なによりも画期的で、型破りだったのが歌集の中身である。

やは肌のあつき血汐にふれも見で
　さびしからずや道を説く君

罪おほき男こらせと肌きよく
　黒髪ながくつくられし我れ

このような情熱的な歌が三九九首、一ページに三首ずつ並んでいるのだから、話題にならないはずはなかった。「やは肌」「黒髪」「乳ぶさ」「ひと夜妻」「うなじ」「御口を吸はむ」などという言葉が、当時はどれほどセンセーショナルだったことか。発売から五日目には「東京朝日新聞」がさっそく新刊紹介コーナーで取り上げ、「〝春みじかし何に不滅の命ぞとちからある乳を手にさぐらせぬ〟の一首など女性の作としては如何はしきものあり」と論じている。

この歌集が文壇に与えた衝撃も、並大抵のものではなかった。英文学者の上田敏（二七）は「舞姫」の章について「女史が専ら鴨東の花ともいふべき舞妓共の美しき姿態と、あどけなき動作とを風詠し、ミューズの支配の至る所にあまねきをあばきたるは、いかに公明の心胸ぞや」と絶賛し、山県悌三郎主幹の投稿雑誌「文庫」（一〇月刊）に掲載された「新派歌人評論」も「縦横無比、左回右旋、奔放跳躍、万千の奇態を極尽して三十一文字の能事畢れること、この女詩人の如きは稀なり」と手放しでほめている。

しかし、すべてが好意的だったわけではない。いや、むしろ〝乱倫〟の書であるとの見方の方が支配的だった。

たとえば、短歌雑誌「心の花」は合評方式で『みだれ髪』を俎上に乗せ、めった斬りにしている。「著者は何者ぞ、敢へて此の娼妓、夜鷹輩の口にすべき乱倫の言を吐きて、淫を勧めんとはする」と晶子を娼婦に見立てたかと思うと、「〝病みませるうなじに繊きかひな捲きて熱に

▲晶子の生家である堺の駿河屋。右は晶子の長男・光。大正末頃。

▲明治34年8月に刊行された『みだれ髪』。装幀は藤島武二。

かわける御口を吸はむ）これを絵にかいたらどういふ立派なものが出来よう。（中略）随分春画に近いものだ」と春画になぞらえてみせる。

どうやら、守旧派は、二二歳のうら若き女性がこのような歌を詠むことに嫌悪感を抱いたようだ。だが、若い世代の受け取り方は違っていた。晶子の恋愛に対する一途な姿勢、旧習に縛られず自由に飛翔する精神などが、若者たちの圧倒的支持を得ていくことになる。「一時は奇才を謳はれたれども、浮情浅想、久しうして堪ゆべからざるを覚ゆ」と酷評した評論家・高山樗牛（三〇）の予想をくつがえし、『みだれ髪』は次々と版を重ねていく。

▶「明星」明治三四年一月号。表紙は一条成美が描いた。

▲鉄幹をめぐってライバル関係にあった晶子（右）と山川登美子。

老舗菓子店のいとはん〝情熱の歌人〟へと変身

鳳晶子（戸籍では志やう）は、明治一一年一二月七日に、堺市甲斐町の老舗菓子店「駿河屋」の三女として生まれた。当時の堺は気風が荒かったため、両親は晶子を世間から隔絶して育てた。いわゆる箱入り娘だったのである。

そんなお嬢さんが〝情熱の歌人〟に変身するきっかけとなったのが、五歳年上の与謝野鉄幹（本名・寛）との出会いであった。明治三三年八月四日、この年に「明星」を創刊した鉄幹が来阪し、二一歳の晶子は堺の歌人とともに彼の宿を訪ねた。すでに「明星」二号に晶子の歌六首が採用されてはいたが、お互いに初見であった。同日、晶子より一歳下の歌人・山川登美子も初めて鉄幹に会っている。

この日を境に、鉄幹、晶子、登美子の三人は恋愛遊戯とでも呼ぶべき交友をスタートさせる。晶子も登美子も、鉄幹には林滝野という妻がいることは承知していた。しかし、湧き出る恋愛感情はどうしようもなく、彼女らはその気持ちを正直に詠んだ。鉄幹も結婚と恋愛は別ものだと考え、恋に精を出す。

登美子に縁談が持ちこまれ、三人の関係に転機がやって来た。ライバルの登美子が退いたことで、晶子は「恋を恋する」段階から一歩踏み出すことになる。三四年一月、鉄幹と晶子は思い出の地である京都・粟田山に遊ぶ。二人だけで夜をすごし、観念的な愛から肉体をともなった愛へとステップ・アップしたのであった。

ちょうどその頃、鉄幹と滝野の関係は冷え切っていた。そして四月九日、ついに滝野は郷里へ帰っていった。晶子は、いよいよ心を決めなくてはならない。親や郷里を取るか、みずからの愛を貫き通すか。結論は鉄幹への愛を信じること、そのために家を出ることだった。

六月一〇日、当座の着替えと身のまわりのものを入れた風呂敷包みだけを持って故郷を出奔した晶子が東京・新橋駅に降り立った。それを着流し姿の鉄幹が迎える。連れていかれたのは、渋谷・道玄坂の住居兼用の東京新詩社だった。八畳一間と六畳が二間、それに三畳と玄関という家が晶子の新しい住まいであり、活動の場となったのである。

『みだれ髪』が投じた波紋が世の中に広がりつつあるこの年九月、鉄幹と晶子はバイロンの翻訳者として知られる木村鷹太郎の媒酌で結婚した。生涯に五万首の歌を詠み、近代日本最高峰の女流歌人となる与謝野晶子の誕生である。

▼『みだれ髪』本文。399首が「臙脂紫」「蓮の花船」など6章に分けられて収録されている。本文138ページ。

みだれ髪

臙脂紫

鳳晶子著

夜の帳にささめき尽きし星の今を下界の人の鬢のほつれよ

女たちの肖像

「愛国婦人会」を創立した〝軍国主義社会の母〟奥村五百子の熱血ぶり！

稲葉真弓

日清戦争から日露戦争へと続く緊迫した時代の中にあって、この年の二月二日、「愛国婦人会」が結成された。同会は、戦傷兵の救済、戦没兵の遺族の援護を目的とする婦人の組織で、総裁名誉会長には皇族を推戴、華族、実業界の上流夫人たちが会員として名をつらねた。会を発足させたのは、国粋主義を貫いた婦人運動家の奥村五百子（五五）である。彼女は発会式で、「陸海軍の兵士が忠死をとげてくれなければ、わが日本婦人は一日も安穏にはしておれない」と演説、感きわまりついに壇上で声を上げて泣き出し、参会者を感動させた。

機関誌「愛国婦人」を発行するかたわら、全国を遊説、一年後の三五年には会員数一万四〇〇〇人、日露開戦後の三八年には四六万人余、日中戦争の起きた昭和一二年には全国津々浦々にまで「愛国婦人会」の名は広まり、三三〇万人の会員を擁する大組織に発展。五百子は〝軍国主義社会の母〟とでも言うべきシンボルとなっていった。

▶唐津の殖産にも力をつくし、製薬会社を創設。

彼女の熱血と男まさりの性格は、幼少時に体験した倒幕運動と無縁ではない。弘化二年（一八四五）、佐賀県唐津の真宗の寺に生まれた彼女は、父が勤皇派だったため、尊攘倒幕運動のため男装姿で萩藩へ密書を運ぶ使者として乗りこんだり、西郷隆盛や高杉晋作と接することもある〝少女志士〟として育った。慶応二年（一八六六）、同じ真宗派の寺の住職と結婚したが、二年で死別。明治三年、尊攘運動の同志、水戸藩浪士・鯉淵彦五郎と再婚。三人の子どもをもうけたが、明治新政府に対応できず無気力になった夫に絶望、二〇年、離婚した。

持ち前の熱血、政治好きの血が頭をもたげるのはこのあたりからである。

帰郷後は、初の衆議院議員選挙に立候補した同郷の天野為之の選挙運動に奔走したほか、唐津開発のため、養蚕・製糸業を興すなど実業家としても手腕を振るった。

「愛国婦人会」設立のきっかけは、明治三三年、皇軍慰問使に加わり、天津、北京など戦地での兵隊たちの悲惨な実情を目のあたりにしたことにあった。「日本の兵隊は国に命をささげている。それを援護するのが、日本婦人のつとめではないか」。彼女は同県人の小笠原長生や近衛篤麿などを説得、「愛国婦人会」設立を実現させ、全国遊説、傷病兵の慰問に駆けまわったが、病で倒れ、三九年同会を引退。半年後の明治四〇年二月、入院先の病院で死去した。

勝者・敗者

日本人初のラグビー試合！慶応義塾vs.外国人クラブ三五対五と〝大健闘〟で敗退

阿部珠樹

近代スポーツの起源については、伝説や作り話が多く、研究者を悩ませているが、こと、日本のラグビーに関してははっきりしている。

日本にラグビーが紹介されたのは明治三二年。慶応義塾の英語教師で、横浜生まれのエドワード・クラークによってであった。ラグビーは一八二〇年代、英国のラグビー校でフットボールの試合中、ボールを持って駆け出した生徒によって偶然生まれたとされているが、日本に紹介された時は、ひととおりルールも整って、近代スポーツの体裁を備えた〝完成品〟であった。

クラークは慶応の学生たちに、このジェントルマンのスポーツを教えこんだのだが、その右腕となって活躍したのが日本ラグビーの父とも母とも呼ばれる田中銀之助（二八）だった。田中は慶応のOBではなく、学習院からケンブリッジ大学に留学した若い銀行家だったが、留学時代にラグビーに親しんでおり、日本語があまりできないクラークに代わって、この新しいスポーツを学生たちに伝授していった。クラークもケンブリッジの出身ということで、二人はことのほか気が合ったようだ。

そして学生たちに教え始めてから二年後、この年明治三四年、そろそろ本格的な試合をしてみようという話が持ちあがる。もちろん試合といっても、日本人のチームは慶応しか存在しない。そこで横浜の外国人クラブのチームを相手に戦うことになった。時は一二月七日。ところは横浜の横浜公園グラウンド。

勝負の結果は三五対五で外国人クラブの勝ち。詳しい試合内容は伝わっていないが、母国にいた時からラグビーに親しんできた外国勢を相手にこのスコアというのは、慶応にとって大健闘と言えるかもしれない。

この試合をきっかけに、ラグビーは急速に普及した、となれば、話も面白くなるのだが、実際はそううまくはいかず、慶応に次ぐ日本人チームが誕生したのはこの試合から九年後、京都の第三高等学校でのことであった。

▲横浜の外国人クラブチームとの試合に出場した慶応チーム。中央、白いシャツの二人がクラーク（左）と田中銀之助（右）。

CORBIS-BETTMANN／PPS

▲テキサスで大噴油(1月10日)硫黄鉱床をさがしていた鉱山技師・ルーカスが幸運にめぐまれた。噴出量は1日11万バレル。テキサスのオイル・ラッシュが始まった。

▲チェーホフ作「三人姉妹」初演(1月31日)すでに不動の地位にあった劇作家が、モスクワ芸術座のため書き下ろし、大評判となった。写真は第4幕、婚約者を失って悲嘆にくれる末娘。

ノーボスチ通信社

▶戦艦「初瀬」完成(1月18日)英・アームストロング社で建造。前年完成の「敷島」「朝日」に続き、3隻目の強力な新型戦艦だった。翌年には「三笠」も完成する。

呉市企画部海事博物館推進室提供

▶エドワード7世、国王就任(1月22日)栄光の大英帝国の象徴・ビクトリア女王の後を継いだ。59歳。庶民的な性格で、国民に人気があった。写真は翌年の戴冠式で。

HULTON GETTY／オリオン・プレス

Image Library(State Library of New South Wales)／デジタルハウス

◀オーストラリア連邦設立(1月1日)白人優先をうたう白豪主義を掲げ、英国自治領として旗揚げ。ビクトリア女王の祝辞が披露され、盛大に祝典が行われた。写真はシドニーで行われた式典。

吉野孝雄提供

◀「滑稽新聞」誕生(1月25日)ジャーナリスト・宮武外骨(34)が大阪で創刊。痛烈過激な記事を風刺画入りで載せて人気を博したが、しばしば弾圧された。左は、この頃の宮武夫妻。

明治34年1月

- 1(火) ●慶応義塾で、一九・二〇世紀送迎会開催。●マダガスカル島に世界初の自動車道路が開通。
- 2(水) ●東京・魚河岸、初市に五万人。不況で売り上げの七割が鯖。
- 3(木) ●初荷は前年比五割にも満たない、と新聞に。
- 4(金) ●米国でカーネギー財団設立。
- 5(土) ●横須賀軍港には軍艦三〇隻余が停泊、軍人景気で料理店・寄席など大にぎわい、と新聞に。
- 6(日) ●年賀状は前年比四四八五通の増加、と新聞に。
- 7(月) ●露、韓国の中立化を日本に提案(23日、満州=中国東北部からの露軍撤退が先決と回答)。
- 8(火) ●北越鉄道・塚の山トンネルで、崩壊土砂に列車が乗り上げる。奇跡的に人的被害なし。
- 9(水) ●ビール業界、「義和団事件」の戦費などにあてるため政府が検討中の、増税に反対する決議。
- 10(木) ●米国・テキサス州ボーモントで、大油田発見。●大阪の十日戎、大混雑で将棋倒し、女児圧死。
- 11(金) ●露・清国が秘密条約締結の風説、と新聞に。
- 12(土) ●文部省、教科書審査・採用めぐる不正事件頻発に対し、規則を改正し、取締り強化。
- 13(日) ●葉煙草専売法違反が一万数千人、と新聞に。
- 14(月) ●本年は年賀状に絵はがきが流行、最高級品は華村筆の彩色花島図で一枚五銭、と新聞に。
- 15(火) ●国民同盟会、露が西太后派と結んで東三省の権益確保をねらう「露清密約」に反対決議。
- 16(水) ●正岡子規、「日本」に随筆「墨汁一滴」を連載。
- 17(木) ●熊本電話局開業、交換業務開始。
- 18(金) ●川上音二郎・貞奴ら、パリから帰国。
- 19(土) ●東京・伝通院の娘相撲、風俗乱すと営業停止。
- 20(日) ●東京市参事官収賄事件の予審終結、全員有罪。
- 21(月) ●大阪商船「淡水丸」、金門島付近で座礁・沈没。
- 22(火) ●英国のビクトリア女王が死去、エドワード七世が王位継承。ビクトリア朝時代終焉。
- 23(水) ●仏の病院に、世界初の女性インターンが誕生。
- 24(木) ●品川沖の海苔は北風が少なく不作、と新聞に。
- 25(金) ●臨時商業会議所連合会、私鉄買収と公債償還は外債募集で行うべきとの請願を決議。●宮武外骨、「滑稽新聞」を創刊。
- 26(土) ●政府、酒・砂糖などの増税案を衆院に提出。
- 27(日) ●東京市内の銭湯に薬湯が流行、と新聞に。
- 28(月) ●東京・深川不動の縁日で物乞い二〇人余拘引。
- 29(火) ●清国で変法の詔勅。政治の近代化めざす。
- 30(水) ●東京・本所の寿座で「義和団事件」活動写真会。
- 31(木) ●横浜で、新築の芝居小屋「雲井座」舞台開き。

ニュース・ファイル 1901

フォト＋日録で再現する365日

二〇世紀第一年の日本は増税騒ぎで明けた。そして、南下するロシアとの神経をすり減らすような外交交渉。八幡製鉄が創業、発達する電車が各地で人力車と軋轢を繰り返したこの年、アメリカでは大油田が発見され、USスチールとカーネギー財団が設立された。

◀滝廉太郎、ドイツ留学(4月6日)東京音楽学校(現・東京芸大)の辞令を受け、この日横浜を出航、10月からライプチヒ音楽院に入学した。しかし結核にかかり無念の帰国。明治36年、23歳の若さで亡くなった。

日本近代音楽館提供

▲内田良平(27)、黒竜会を組織(2月)ロシアを警戒する大アジア主義を掲げ、日本の大陸進出に暗躍。写真は、玄洋社時代の内田(後列中央)と頭山満(前列左)。

慶応義塾 福澤研究センター提供

▲福沢諭吉死去(2月3日)慶応義塾の創立者で、『西洋事情』などを著し、日本の近代化を推進した功労者だった。66歳。写真は、幅広い参列者を得て盛大に行われた8日の葬儀。

CORBIS-BETTMANN／PPS

▶J・P・モルガン、USスチール社設立(2月25日)世界一の鉄鋼メーカー、カーネギー製鋼会社をついに買収。政権をも動かす金融王が、全米鉄鋼生産の7割を占める巨大会社を誕生させた。

Topham／ユニフォト・プレス

◀ボーア戦争、和平に失敗(2月27日)ボーア側がイギリスの支配を拒否、英軍は無差別掃討作戦を開始した。翌年、トランスバールは英直轄地に。写真は進撃する英軍。

▶孫文、南方熊楠を訪問(2月)中国革命の闘士が、異能の生物・民俗学者と和歌山で再会。ロンドン亡命中に、大英博物館勤務の熊楠と親交を重ねていた。中央が孫文(34)、左から二人目が熊楠(33)。

平凡社提供

▶八幡製鉄所が始業(2月5日)第1号溶鉱炉の火入れ式を挙行。原料は輸入、技術はドイツに依存しながらも、福岡県八幡村に年産9万トンの一貫設備。官営による、日本初の近代的製鉄がスタートした。

毎日新聞社

明治34年2月

1(金)●京浜電鉄の大森―川崎間で運転開始。
2(土)●実業家・岩崎弥之助、カナダの生命保険会社と二〇万円の保険契約。
3(日)●国家主義団体・黒竜会発会式(主幹・内田良平)。
4(月)●ハバナで黄熱病を媒介する蚊の撲滅運動開始。
5(火)●八幡製鉄所、第一高炉の火入れ式。操業開始。
6(水)●明治三三年度米は前年比三・三㌫増と新聞に。
7(木)●神奈川県下の有志、同県初の信用組合を出願。
8(金)●全国売薬業者総代、薬に印紙を貼る課税法を改正(印紙廃止)するよう、蔵相に請願。
9(土)●日本鉄道が、水戸観梅の臨時列車を半額の料金で運行、と新聞に。
10(日)●青森歩兵第三一連隊、三日間の雪中行軍完遂。
11(月)●広島電話交換局開業、交換開始。
12(火)●東京の新橋銀行鉄砲洲支店が支払い停止。
13(水)●加藤外相、清国公使に、「義和団事件」処理で、ロシアに特殊な権益を与えないよう勧告。
●北海道・夕張炭鉱でガス爆発、一七人死亡。
14(木)●京浜電鉄開通で大森駅の車夫困窮、と新聞に。
15(金)●奥羽本線の赤湯―上ノ山間、開業。
16(土)●露、満州撤退の条件として、中国東北部・中央アジアでの権益確保などを清国に要求。
17(日)●東京・神田の若い女性ばかりの理髪店が大繁盛、理髪組合との紛争が生じる。
18(月)●憲政党の増税反対派代議士三四人、脱党し、三四倶楽部結成。
19(火)●教育勅語撤回の風説につき、衆院で質問書。政府は事実無根と否定。
20(水)●オーストリア人の独語演劇を歌舞伎座で公演。
21(木)●アインシュタイン、チューリヒ市民となる。
22(金)●露、清国に新要求、満州での清国の主権制限、鉱山利権の独占など。
23(土)●英・独、独領東アフリカと英領ニアサランドの境界画定協定に調印。
24(日)●奥村五百子ら、愛国婦人会を創立。戦没兵士遺族の救護活動などをめざす。
25(月)●米国の金融王・モルガン、カーネギー製鋼などを買収し、USスチール社を設立。
26(火)●漬物用京菜が豊作で一束約一二銭、と新聞に。
27(水)●ボーア戦争第一次平和会議、ボーア側が英への合併を拒否し、失敗に終わる。
●貴族院本会議で増税案否決が濃厚になったため、政府は詔勅求め一〇日間の停会を命令。
28(木)●警視庁、脱出用の英国製救助袋をテスト。

CORBIS-BETTMANN／PPS

▲フィリピン革命挫折(3月23日)執拗なゲリラ攻撃もおよばず、指導者・アギナルド(写真、32)は逮捕。米国がスペインに代わって、宗主国となった。

▼河口慧海、ラサに入る(3月)前年、単身密入国。チベット人に化け、念願のセラ大学修学僧侶となった。35歳。2年後発覚し、脱出。明治36年に帰国した。

証言・あの日この日

原　敬(45)

6月21日(金)〈人生全く夢の如し。本人は種々の悪評を受けたけれども、世人の想像するが如き奸悪をなす者にあらず、案外淡泊の人にして、金銭に就ては綺麗なる男なりしなり。而して才気もありたれども随分剛愎にして、常に強硬なる態度を取り、真に政友会の柱石なりしが、不慮の災に罹る、真に惜しむべし。政友会に取りても非常の損害なり〉(原敬『原敬日記』)

伊藤博文を中心に結成されたばかりの新政党「政友会」の中心メンバーとして活躍していた星亨が、この日、刺殺された。原は、その直前まで星亨と将棋をさしていたので、この突然の凶事に驚く。しかし、皮肉にもこの星亨暗殺事件を契機に、いよいよ政党政治家・原敬の活躍が始まる。またこの暗殺事件は伊藤博文、原敬と続く政友会の暗殺の歴史の序曲でもあった。　(山崎行太郎)

佐々木烈『明治の輸入車』／日刊自動車新聞社提供

「太陽」

▲司法官、同盟辞職(3月24日)衆院が俸給アップと増員を予算から削除したため、東京地裁の22人が決意。写真はそのうちの14人。5月、金子法相の諭告で落着。

▶ヘディン(36)、楼蘭を発見(3月)スウェーデンの地理学者が2回目の中央アジア探検で、多数の古文書を発見し、漢代のオアシス都市の存在を実証した。

bpk／デジタルハウス

▲自動車初輸入(3月)横浜ブルウル商会に、米国製「ナイアガラ号」(写真)が到着した。エンジンは8馬力の蒸気機関。外国人が持ちこんだことはあったが、販売目的で自動車が輸入されたのは初めて。

明治34年3月

1(金)●一高で、西寮寮歌「春爛漫の花の色」発表。
2(土)●米議会、キューバ干渉の権利を規定したプラット修正条項可決。キューバを実質的に支配。
3(日)●輸送力増強のため列車の速度を向上と新聞に。
4(月)●マッキンリー米大統領、二期目に入る。
5(火)●文部省、履修科目や授業時間を定めた中学校令施行規則を公布、(22日、高等女学校に公布)。
6(水)●警視庁、理髪店営業取締規則を公布。
7(木)●国内鉄道総延長は約九四〇〇㌔、と新聞に。
8(金)●東京・下谷の牛乳搾乳所で、感染力の強い牛疫が発生、警視庁が牛疫予防取締令を発する。
9(土)●東京・池上本門寺で火災、本堂・客殿など焼失。
10(日)●貴族院に、東京都制法案が提出される。
11(月)●国木田独歩、短編集『武蔵野』を刊行。
12(火)●貴族院に、増税法案成立を命じる勅語が出される(16日、可決)。
13(水)●早稲田中学内に高等実業中学校(現・早稲田実業高校)の設立が決定。
14(木)●東京・早稲田の大隈重信邸が全焼。
15(金)●独、英と権益を相互確認した揚子江協定の満州での不適用を表明、英の対露牽制は失敗。
16(土)●神奈川県秦野で、タバコ密売の三一人告発。
17(日)●パリのベルネム画廊でゴッホの作品展。
18(月)●大阪衛生会、買い上げネズミ一匹に抽選券一枚交付し、一等一〇〇円の賞金授与を決める。
19(火)●『万朝報』、黒岩涙香訳「巌窟王」連載開始。
20(水)●日本、北京と漢城(現・ソウル)に郵便局を開設。
21(木)●米誌、ニューヨークで上演中の芝居の人気ナンバーワンは「アンクル・トムの小屋」と報道。
22(金)●千葉県鴨川で大火、二〇〇戸余焼失。
23(土)●米国のオペラ歌手、ネリー・メルバが、薄切りでカリカリに焼く「メルバ・トースト」を考案。
24(日)●東京地裁の判事・検事、司法官増給予算削減に抗議し、辞表提出(以後各地に波及)。
25(月)●英・マンチェスターで、世界初の二気筒ディーゼルエンジン公開。
26(火)●山口県赤間関に、ガス灯火のフグ型灯台落成。
27(水)●九州鉄道が豊州鉄道を合併。
28(木)●岩越線で、列車が落石のため転覆。乗客は無事。
29(金)●オーストラリア連邦で初の総選挙、保護貿易主義のバートンが初代首相に。
30(土)●『中学唱歌』刊行。「荒城の月」「箱根八里」など所収。
31(日)●山梨県甲府に看護婦産婆養成所設置。

▲大砲、横綱昇進(4月3日)前2場所、無敗だったため司家・吉田追風より免許を取得。31歳。宮城県出身。身長が197センチもあり、歴代横綱中で最長身。引き分けが多く、「分け綱」の異名も。

Ullstein/ユニフォトプレス

▲ドイツにモノレール開通(4月1日)オイゲン・ランゲンが考案。ルール工業地帯の谷あいの町・ブッパータールの川の上を懸垂式で走行、13.3キロの路線を最高時速60キロで走った。

川上富司提供

▲川上音二郎・貞奴、再渡欧(4月6日)前回の好評から、欧州を再度巡業。貞奴は、当時最高の女優・ドゥーゼと並称され、「東洋のドゥーゼ」と言われた。写真はニコライ2世の招宴。

◀昭和天皇誕生(4月29日)皇太子(後の大正天皇)と節子妃に待望の親王。号外が発行され、各地で奉祝のイベント。裕仁と命名され、5月に迪宮(みちのみや)と称号が定められた。

▲女子美術学校創立(4月1日)女性の美術家・美術教師育成のため、東京・本郷に開校。翌年、日本画・裁縫・刺繍科の14人が卒業。後に杉並区に移転、昭和24年、女子美術大学に。

『目で見る天童・村山の100年』/郷土出版社提供

▼奥羽南線、山形まで開通(4月)明治27年、福島を起点に着工。写真は山形駅の開業式。38年、横手まで延長、青森からの北線と接続、奥羽本線となった。

明治34年4月

1(月)●第一~第五高等学校医学部が、千葉・仙台・岡山・金沢・長崎の医学専門学校として独立。

2(火)●米国の策謀で逮捕されたフィリピン革命家・アギナルド、米国への忠誠を約束。

3(水)●東京で「第一回日本労働者大懇親会」開催。

4(木)●大阪砲兵工廠、ニッケル鋼を製造(5月7日、クロム鋼を製造)。

5(金)●露、満州に関する露清交渉断念を宣言。満州への駐留は解かず。

6(土)●滝廉太郎、独留学に出発。同じ船で、川上音二郎・貞奴らも、欧州興行に出発。

7(日)●日露海軍戦力は日本が数段優勢、と新聞に。

8(月)●日本・スペイン特別通商条約、公布。

9(火)●洋風建築の増加で板ガラスが高騰、と新聞に。

10(水)●長崎で清国派遣英仏兵士が乱闘、負傷者出す。

11(木)●奥羽南線が福島から山形まで開通。

12(金)●草花を模した花かんざしが大流行、と新聞に。

13(土)●瀆職法公布。議員などの贈収賄に罰則。

●漁業法公布。漁業制度の近代化始まる。

14(日)●大日本双輪倶楽部が、東京・日比谷で自転車競走一〇レースを開催。曲乗りも大人気。

15(月)●米最高裁、離婚を違法としたニューヨーク州判決をくつがえす。

16(火)●大阪の第七十九銀行と難波銀行が、資金不足から支払い停止。金融恐慌、西日本に広がる。

17(水)●司法省、司法官増給運動の指導者を罷免。

18(木)●台湾から帰港の「台中丸」でペスト発生。

19(金)●北京の列国公使団、「義和団事件」の賠償金総額四億五〇〇〇万両を清国に要求(清国受諾)。

20(土)●日本女子大学校設立、開校。

●幸徳秋水、『廿世紀之怪物・帝国主義』刊行。

21(日)●群馬県伊香保で亜硫酸ガスが発生、三人死亡。

22(月)●福井県の羽二重業者が、反物の長さをごまかす不正、と新聞に。

23(火)●広告入り団扇が流行し扇子を圧倒、と新聞に。

24(水)●山県有朋、伊藤博文首相に日英独同盟を建言。

25(木)●米国・ニューヨーク州で自動車の登録制始まる。初年度登録は九五四台。

26(金)●本年の台湾・ペスト患者は八一三人、と新聞に。

27(土)●北海道炭鉱鉄道の機関工が待遇改善求めスト。

28(日)●前年の造船は、英が世界の五分の三と新聞に。

29(月)●大正天皇の第一皇子・裕仁親王誕生(後の昭和天皇)。

30(火)●官設鉄道の今年度開業は約一三〇キロと新聞に。

ノーボスチ通信社

◀チェーホフ(41)、結婚(5月25日)新婦はモスクワ芸術座の女優、オリガ・クニッペル(31)。3年前に見そめ、結核を患っていたが、「結婚はしない」との信条を捨てた。

▲社会民主党結成(5月18日)軍備全廃、階級制度廃止などを掲げたため、20日に結社禁止。写真は創立発起人の、左から安部磯雄、河上清、幸徳秋水、木下尚江、片山潜、西川光二郎。

毎日新聞社

▶褌姿の野球部(5月)一高を頂点に大都市で野球熱が定着、地方にも波及した。愛媛師範学校では、米人牧師が野球部を指導。選手は足袋はだしで走り、素手でボールを受けた。

▶嘉納治五郎、高等師範校長に再度就任(5月9日)学習院大教授、一中校長などを歴任、かたわら講道館や亦楽書院を創立。教育者としての人格・職見が高く評価された。

◀山陽鉄道全通(5月27日)神戸側から西へ順次延長、ついに馬関(現・下関)まで約529キロが開業した。写真は完成した馬関駅。関門・関釜連絡船の発着駅としてにぎわった。

北海道大学附属図書館所蔵

▲札幌農学校創立25周年祝典(5月)開拓使仮学校の札幌移転・開校を記念、時計台のある練兵館が式場となった。写真は、市民を驚かせたイルミネーション。

明治34年5月

1(水)●陸軍工兵会議、軍用軽気球のテストに失敗。

2(木)●伊藤博文首相、閣内不統一理由に辞表提出。

3(金)●関西貿易の破綻を契機に京都で銀行界混乱。

4(土)●政府、英・グラスゴー博覧会への出品補助金、三万五〇〇〇円の支出を認可。

5(日)●元老会議、天皇の諮問で後継首相につき協議。

6(月)●米国各地で、市電従業員が労組設立承認を求めてスト、軍隊が出動して鎮圧。

7(火)●台湾総督府が富籤発行を計画、と新聞に。

8(水)●インドで干ばつ、死者推定一二五万人。

9(木)●大阪の堂島米市場で、買い方の買いあおりから立ち会い停止。

10(金)●東京電話局、この日限りで男性交換手を廃止。

11(土)●東京・大阪の工業学校を、高等工業学校と改称。

●日本郵船、太平洋航路を、四週一便から四週二便に増強。

12(日)●遅霜などの気候不順が養蚕に打撃、と新聞に。

13(月)●東京の尋常小学校の授業料が二〇銭に決まる。

14(火)●官設鉄道列車内での物売りを禁止、と新聞に。

15(水)●海軍、艦内生活の肋膜炎・肺炎・気管支炎などの呼吸器疾患増加に対策、と新聞に。

16(木)●大蔵省、明治二二年度発行以来の大蔵省証券六〇〇万円発行を告示。利率は七・五%。

17(金)●新造の関門連絡船は航海時間一二分と新聞に。

18(土)●片山潜ら、社会民主党結成(20日結社禁止に)。

19(日)●人気力士の絵入り手ぬぐいが人気、と新聞に。

20(月)●社会民主党の宣言などを掲載した新聞・雑誌が差し押さえられ、「安寧秩序紊乱」で起訴。

21(火)●肥料取締法公布。

22(水)●北海道の第二期鰊漁漁獲は前年比五万石増加。

23(木)●「義和団」の戦闘行動が終結。

24(金)●金融恐慌で日銀の発行余力が減少、と新聞に。

25(土)●日本郵船が世界周遊切符を発売。八九〇円。

26(日)●上海で、東亜同文書院が開院式。

●ウィーンで第二回国際自動車ショー開幕。

27(月)●山陽鉄道の神戸―馬関(現・下関)間が全通。

●米最高裁、プエルトリコ人は事実上米市民でないと判決。

28(火)●京都の老舗旅館「柊家」が全焼。

29(水)●ソールズベリー英首相、「光栄ある孤立」を主張する外交覚書を発表。

30(木)●警視庁、ペスト予防と風俗改善のため、人力車夫・馬丁などの裸足を厳禁。

31(金)●栃木・埼玉・千葉各地に降雹、被害甚大。

「太陽」

▼**水沢英語学会校舎が落成（6月2日）**岩手県青年の米国雄飛を目標に、下飯坂武次郎らが後藤新平・斎藤実らの寄付を得て建築。1期生は35人。大正13年、町立水沢商業実践学校に発展した。

▲**東京市会議長・星亨、暗殺（6月21日）**市庁で雑談中、剣術師範・伊庭想太郎（右）が「賊！」と叫び刺殺。星（左）は51歳。市会汚職事件関与の疑いなどで「公盗の巨魁」と非難されていた。

フランス国立美術館連合提供

▲**ピカソ、パリで初の個展（6月24日）**美術評論家の絶賛をあび、バルセロナから活躍の舞台を移した。写真はアトリエで。左端がピカソ、まだ19歳だった。

▶**新大阪駅完成（6月）**東海道線増発、大阪鉄道・西成鉄道開業などターミナル駅として発展。駅舎・構内の拡充を迫られ現在地に移転・新築。翌7月1日開業した。

ROGER-VIOLLET／ユニフォトプレス

▶**ベクレル、「放射能」を証明（6月12日）**フランス科学アカデミーで、ラジウムの小片が自然に放射能を発していることを示し、電離作用などに言及。写真は実験室のベクレル。2年後、ノーベル賞を受賞。

明治34年 6月

1（土）●官営鉄道、初めての学生定期乗車券を発売。●新潟県小須戸町で大火、六七七戸焼失。
2（日）●第一次桂太郎内閣成立。元老・山県有朋の影濃く、「小山県内閣」と呼ばれる。
3（月）●新築なった東京・築地本願寺で落慶法要。
4（火）●信越線・碓氷峠の複線化工事が完成。
5（水）●物理学者・山川健次郎が東大総長に就任。
6（木）●鏑木清方ら浮世絵系画家が「烏合会」を結成、第一回展開催。
7（金）●カーネギー、スコットランドの大学育英資金として一〇〇〇万ドルを寄付。
8（土）●「義和団事件」の連合軍最高司令官・ワルデルジー独元帥が、帰国に先立ち表敬訪日。
9（日）●東京の伝染病は前年より八二人減、と新聞に。
10（月）●官営鉄道鹿児島線の鹿児島―国分間が開業。
11（火）●柴又帝釈天縁日で上野―金町間臨時列車運行。
12（水）●米国、キューバに圧力をかけ憲法修正を強制。米国の干渉を憲法上でも認めさせる。●物理学者・ベクレル、放射線現象について発表。
13（木）●横浜の在留外国人四一〇人が市税滞納。市は督促状を発行。
14（金）●人力車夫、負債で車賃二三円余が払えず逃げまわる貴族院議員を、賃金未払いで告訴。
15（土）●大阪組合銀行、初めて預金利率を協定。定期預金は七・五パーセント。
16（日）●孫文が日本に亡命。
17（月）●神奈川師範生徒が、舎監更迭で校長排斥運動。
18（火）●東京瓦斯、タールを蒸留し、硫安を製造。
19（水）●鉄道運賃は一マイル平均一銭三厘、と新聞に。
20（木）●東京の衛生会が、ネズミとりを貸与と新聞に。
21（金）●前逓信相・星亨、伊庭想太郎に刺殺される。
22（土）●住友が、初の民間平炉工場・日本鋳鋼所を買収し、住友鋳鋼所を開業（現・住友金属工業）。
23（日）●風鈴つきの釣忍は六～四五銭ほど、と新聞に。
24（月）●ピカソ、パリのボラール画廊で初の個展。
25（火）●東京の神田青年館で、京釜鉄道会社創立総会。
26（水）●改正狩猟法施行規則公布。猟期・保護鳥獣を定める（鶴・燕・郭公などは禁鳥）。
27（木）●東大病理学教室付近からペスト保菌ネズミを発見、菌撲滅のため医科教室を焼却。
28（金）●筑豊線の若松―上山田間開通。
29（土）●文部省で学位授与式。新博士は三二人。
30（日）●独で、気球が一万八〇〇〇メートルの高度記録を達成。●関西地方に豪雨、京都の渡月橋が流失。

「現場」を歩く 久里浜

日米"蜜月時代"に建てられた「ペリー上陸記念碑」の一世紀

山本徹美

▲横須賀市久里浜のペリー公園。「ペリー上陸記念碑」の右の建物は、ペリー記念館である。　但馬一憲

明治三四年七月一四日、久里浜（現・神奈川県横須賀市）で、「ペリー上陸記念碑」の除幕式が挙行された。

この日の天候は雨。午前八時三〇分、横浜から式の関係者一行を乗せた「博愛丸」が出航。乗船したのは、金子堅太郎米友協会会長や桂太郎総理など政府閣僚と、米国来賓のビヤズリー少将、ロジャース少将ら海軍軍人で、計二〇〇人余。

船は久里浜沖で投錨、一行は小型蒸気船に乗り換え、海岸に上陸。浜では花火を打ち上げ、アメリカ国歌を演奏するなどして約一〇〇〇人が歓迎した。

ペリー提督が久里浜に上陸したのは嘉永六年（一八五三）七月一四日（旧暦六月九日）だった。四〇〇人の海兵隊員に護衛された提督は浦賀奉行・戸田伊豆守氏栄と会見、フィルモア大統領の親書を手渡し、開国を要求する。

その時随行した護衛官の中に、若きビヤズリー（当時、少尉候補生）がいた。

その後もビヤズリーは大阪開港式に臨席するなど、何回か来日していたが、明治三三年一〇月二五日、たまたま久里浜を訪れる機会があった。往時を偲んで、ここに記念碑を建ててはどうか、と新聞記者に語り、米友協会での招待講演でも熱弁をふるう。それを受け、同年一一月六日、米友協会は建碑案を議決。義捐金の勧誘状を発したところ、同三四年六月末までに総額二万円に達し、記念碑建立が実現したのであった。

「記念式典」の復活

平成一〇年七月初旬、久里浜にあるペリー公園を訪ねてみた。中央に据えてある石碑は意外と巨大である。資料によると、仙台産花崗岩で、高さ一丈五尺（約四・五メートル）、幅八尺（約二・四メートル）、厚さ一尺二寸（約三六センチ）、重量一〇トン余。基台は房州産根府川石で高さ一丈八尺（約五・四メートル）、重量九トン余。総高三丈三尺（約一〇メートル）。

園内にはペリー記念館も併設（昭和六二年開館）され、ペリー来航に関係した当時の資料、模型などが展示してある。

「ペリーの石碑は東京大空襲のあった直後（昭和二〇年三月）、地区の青年たちによって倒されました。半年くらい放置され、私たちはその上で遊んだ記憶があります」（ペリー記念館・松田立峰氏）

第二次世界大戦中に廃止された「ペリー上陸記念式典」も昭和四三年に復活。久里浜黒船祭り花火大会、御輿パレードなども時期をずらし開催されていたが、平成七年から合体、「ペリー祭」と命名され、毎年、七月一四日前後の土曜日に開催されている。

「横須賀米軍基地に勤務している方がペリーに扮し、戸田伊豆守役の地元観光協会関係者に親書を手渡すのが恒例行事です。公園前のペリー通りには屋台が並び、例年五万～六万人の人出で、町の人口は一〇万人に膨れ、にぎわいます」（久里浜行政センター『ペリー祭』事務局）

再び石碑が倒されることなく、なごやかにこのイベントが存続してほしい。

毎日新聞社

▲明治34年7月14日に行われた「ペリー上陸記念碑」除幕式。桂首相をはじめ、内外から200人が参列。

ベストセラー
癌を告知され余命を知った中江兆民『一年有半』の感動

この年九月、反骨の思想家・中江兆民の『一年有半』が刊行され、その異様な内容が話題を呼び、たちまち版を重ねた。癌で余命一年半と宣告されてからの日録風エッセイ集だったのである。

この頃はまだ、癌の告知はもとより余命の宣告など考えられない時代だった。喉頭癌であることを知り、そのうえで余命を楽しむために医師にその年限を問いただすなどということは、常軌を逸していた。それだけに、すべてを率直に記したこの本から受ける感動には、思想を超える深いものがあった。出版にあたっては弟子筋にあたるアナーキストの強者・幸徳秋水が死と向かい合う中江兆民の姿勢に感銘を受け、編集に協力した。

余命をどうすごすかについて、中江は「旅の身なれば書籍とても無く、先づ差当り当地の朝日、毎日の両新聞と兼て愛読し来れる、東京の万朝報とを読む事也、即ち此三新聞に由りて余の世界との交際を継続する事也」とし、政治的・社会的現実に対して鋭い意見を記し続けた。

同じ三月に国木田独歩の『武蔵野』が刊行され、こちらは案内書のようなところもあって評判になった。独歩の記すところによると「昔の武蔵野は萱原のはてなき光景を以て絶類の美を鳴らして居たやうに言ひ伝へてあるが、今の武蔵野は林である」そうで、その武蔵野をたくみな筆で描写し、人々を誘った。

また詩歌の方では島崎藤村の『落梅集』が刊行された。信州に滞在した時に書きためたもので、いくつか今に残る詩句も、この詩集におさめられている。「小諸なる古城のほとり／雲白く遊子悲しむ……濁り酒濁れる飲みて　草枕しばし慰む」「名も知らぬ遠き島より／流れ寄る椰子の実一つ」「昨日またかくてありけり今日もまたかくてありなむ／この命なにを齷齪　明日をのみ思ひわづらふ」などである。

日本近代文学館提供(3点とも)

▲『一年有半』(博文館、35銭)

▲『落梅集』(春陽堂、35銭)

▶『武蔵野』(民友社、二四銭)

スターと名場面
一月に帰国、四月に出発！川上音二郎が次々海外巡業

この年までに、日本でも映画興行は始まっていた。もちろん、現在イメージする映画とは違って、写真が動いて見える不思議な装置そのものを楽しむといった趣が強かった。エジソンが発明したキネトスコープ（一人一人覗き窓に目をあてて映像を見るシステム）が明治二九年に輸入・公開されたのを皮切りに、明治三〇年にはスクリーンに映して大勢で映像を楽しむシネマトグラフや、やや大型の画面を持つヴァイタスコープが輸入・公開され、動く映像を見るシステムは、斬新なエンターテインメントとして大いに歓迎されたのである。

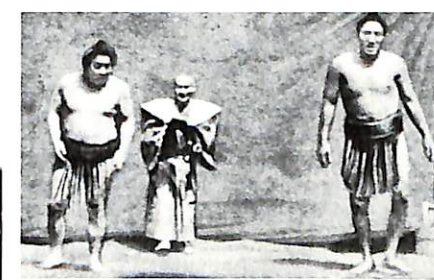
ただ、そのソフトはまだ単純なものばかりで、汽車の通過を撮影したものや、舞踏会や戴冠式などの一シーンをかいま見せるだけのものなどが多く、登場人物に有名人が存在することはあっても、とてもスターが活躍する時代ではなかった。しかしそれでも、現実さながらに見えることの驚きは大きく、好評を博していたのである。

一方、舞台の方では、「オッペケペー節」で知られた川上音二郎の一座がこの年一月、欧米巡業から帰国、さらに四月には二度目の海外巡業に出かけている。

どちらの巡業も予想外の反響を呼んだが、川上のこの活発な活動は、後のエンターテインメントの世界に少なからぬ影響をおよぼすことになる。

「風俗画報」

▲東京・神田の錦輝館における、ヴァイタスコープ上映の様子。画面は、西洋の舞踊を撮影したもののようである。

▶明治33年に撮影され、それ以後の活動写真興行に供された、相撲の活動写真のシーン。

▼明治33年に撮影の歌舞伎「鳰(にお)の浮巣」の一場面。

モノ語り'01
超"ハイカラ"が人気のもと！自転車「ピアス号」、化粧水「オイデルミン」、オルゴールの「レジーナフォン」

▶**自転車のベストセラー**　この頃、自転車は最も人気のある乗りものだった。中でも、明治33年頃から横浜の石川商会(現・石丸自転車)が輸入・販売を始めていた「ピアス号」が人気を集めていた。ニセモノまで出まわったため、その対策として、明治41年には「石川」の石の字をデザインしたマークに変更したほどだった。
自転車文化センター蔵／楠田守

◀**超ハイカラな化粧品が人気**　明治30年に資生堂が発売した化粧水「オイデルミン」が、この頃には人気商品になっていた。そのネーミングと美しいガラスの容器、中身にいたるまで、洋風の化粧水として注目を集めた。ラベルには欧文で商品名が記され、瓶の首の部分には赤いリボンが結ばれているというハイカラぶり。「資生堂の赤い水」と呼ばれて評判になり、発売から100年近く経つ現在でも多くの女性ファンを持つ超ロングセラー商品となった。

▼**高級オルゴールが人気を呼んだ**　この頃、ディスクタイプのオルゴールがさかんに作られていたが、アメリカの「レジーナフォン」は特に人気のあったディスクタイプ・オルゴールだった。中には写真のような、蓄音機と一体になったものもあり、そのサウンドもよく響く優れた装置だった。
那須オルゴール美術館提供

自信と熱意の宣伝広告

津村順天堂の創業者、津村重舎は創業してただちに「中将湯」の新聞広告を打ち、その後も新聞を中心とした、きめ細かい宣伝広告をおこたらなかった。

しかも印刷メディアにおける広告は、女性の生理的特徴や女性でなくてはわからない諸症状に言及するなど、啓蒙的な要素もあわせ持つもので、あくまでも〝婦人〟のための薬であることを強調し、女性たちを安心させたのである。

商品に対する揺るぎない自信と、そこから生まれる、熱意にあふれた積極的な宣伝広告戦略が功を奏し、「中将湯」はやがて婦人薬のベストセラーになっていった。

▶**チャリティ商品が発売された**　すでに小林富次郎商店(現・ライオン)から発売されていたライオン歯磨が、明治33年から「慈善券付獅子印ライオン歯磨」として売り出され、この年には評判になっていた。販売価格3銭の小袋1枚について1厘を、しかるべき施設に寄付するというもので、大正9年まで続く慈善事業となった。20年間で集まった寄付金は、総額33万6554円50銭7厘にものぼった。
ライオン史料センター蔵　奥村健太郎

▼**婦人病に定番となっていた薬**　津村順天堂(現・ツムラ)が明治26年の創業と同時に発売した婦人漢方薬「中将湯」は、この頃には、民間の良薬として大衆に親しまれるようになっていた。女性の冷え性や生理不順など、婦人病に効果ありとされ、積極的な広告戦略とあいまって評判をとった。発売当初の定価は1袋5匁入り、1日分が7銭で、これは米1升よりやや安い価格だった。

▼**洒落たおもちゃはブリキのおもちゃ**　当時、おもちゃとして目新しく、人気があったのは「ブリキ製のおもちゃ」だった。カラフルで、しかも丈夫だったから、その人気は衰えることがなかった。写真の汽車は、長さ16センチほどで、後方(写真では右)のはずみ車で前進する仕掛けだった。窓の雰囲気は、まさしく明治時代のものである。

北原コレクション提供

▶妻のキャロラインと。明治一七年にアメリカに出張した高峰譲吉は、彼女と知り合い、二〇年に結婚する。以来、二人の穏やかで愛のある結婚生活が続いた。

高峰譲吉博士ゆかりの会提供

人物クローズアップ

高峰譲吉（四六）

日本の〝頭脳流出〟第一号！ アドレナリンの特許を取得

▶ニューヨークの高峰研究所。普通の住宅の半地下室にあった。ここで明治三三年六月、アドレナリンを副腎から結晶抽出することに成功。

飯沼信子提供

副腎から分泌されるホルモンを、アドレナリンと言う。血糖量の調節をしたり、心臓の働きを強めて血圧を上げたりする、人間の生命に深いかかわりを持つホルモンである。この副腎浸出液（アドレナリン）の結晶抽出に成功した応用化学者の高峰譲吉（四六）が、明治三四年七月一五日、アメリカで特許権を取得した。

副腎浸出液が、血液の流れに深いかかわりがあることについては、当時すでにいくつかの説が唱えられていた。その主成分が抽出できれば、たとえば、貧血や低血圧などの病状の改善や、手術時の出血防止、さらには心臓の強化などに役立てられるはずで、医学界に多大な貢献ができると考えられていたのである。しかし、世界の名だたる学者たちの試みにもかかわらず、副腎主成分の分離は至難の業だった。

それは約一〇〇年前の、明治三三年六月二九日の朝のことだった。場所はニューヨークの高峰研究所。高峰の共同研究者・上中啓三（当時・二四歳）は、前夜残していった試験管の底に結晶を発見した。色は白色で、これが副腎主成分の純粋結晶なら過塩化鉄を加えると緑に変色するはずである。はたして結晶は緑色に変わり、不純物のないものであることが証明された。高峰はこれをアドレナリンと命名、ドクター・タカミネの名声に加え、高峰は巨大な富をも獲得することになったのである。ちなみに、高峰が亡くなった時、動産・不動産を合わせて約三〇〇〇万ドル（現在の額で約六兆円）の財産が残されていたと言われる。

高峰譲吉は、安政元年（一八五四）一一月三日、越中国高岡（現・富山県高岡市）生まれ。父は蘭方医で、高峰が一歳の時、主藩の金沢に典医として迎えられ、一家は金沢に移った。八歳で藩校の明倫堂に入学。そして一一歳の時、選ばれて長崎に留学し、英語を学んだ。

明治一二年に工部大学校（現・東京大学工学部）の応用化学科を首席で卒業。一三年、イギリスに留学して、一六年に帰国。同年、農商務省工務局に入り、ここで発酵・醸造の研究に取り組むことになったが、これが高峰の将来を決定する転機になった。

高峰はその後、人造肥料の製造などを手がけ、日本の化学工業に重要な足跡を残して、明治二〇年、アメリカ出張中にアメリカ人女性、キャロラインと結婚。帰国後渡米して定住、アメリカでの研究生活が始まった。

高峰の名を一躍有名にしたのが、小麦皮殻を使った麹菌製造法の研究から生まれた、二七年のタカジアスターゼの発明だった。それはウィスキーの元麹を製造する過程で生まれた画期的な消化酵素だった。明治四〇年にはアメリカのパークデービス社で製造、世界中でその効果が絶賛された。日本では明治三二年に設立された三共商店（現・三共）で輸入販売され、現在も商品名にその名をとどめている。

高峰の研究は以降、パークデービス社の求めで副腎浸出液の研究に移り、上中啓三という優れた共同研究者を得て、アドレナリンの抽出成功にいたるのである。

科学ジャーナリストの飯沼和正氏は、科学者としての高峰をこう語る。

「大正六年にできた理化学研究所は高峰の進言によるものですが、研究所という、上からのものでない研究機関のあり方は、科学に対する高峰の考え方を示すものです。その意味で高峰は、科学者としてリベラリストであったと言えるでしょう」

大正一一年七月二二日、明治人の気骨をたずさえ、〝頭脳流出〟第一号として、高峰はアメリカで没した。六七歳だった。

◀左から、長男・襄吉（ジョー・ジュニア）、譲吉、次男・エーベン。一八九一年の撮影。

飯沼信子提供

▶二月二日、ウインザー城に向かうビクトリア女王の葬列。女王はみずから書き残した葬儀の式次第指示書の中で「砲車はがたがたと騒音を立て激しく揺れながら進行するので、うまく調整するように」と記していた。

CAMERA PRESS オリオン・プレス

決定的瞬間

大英帝国に六三年間君臨！地球の四分の一を占めた国母・ビクトリア女王の死

ビクトリア女王（八一）の遺骸を乗せた砲車が、兵士たちに引かれ、ゆっくりとウインザー城に向かって進んでいく。その後ろには女王の長男で新国王のエドワード七世（五九）、孫でドイツ皇帝であるウィルヘルム二世（四二）などがつき従っていた。一九〇一年二月二日に行われたこの大葬は、亡き女王の希望により、軍葬で行われた。街は沈黙の固まりと化し、馬蹄が石畳を蹴る音、刀剣がぶつかり合う音のみが響き、イギリスの日刊紙「タイムズ」は女王の死を「癒しようのない喪失感」と表現した。

ビクトリア女王は一月二二日、ポーツマス沖ワイト島にあるオズボーン宮殿（別邸）で危篤状態におちいり、医師団は「肺の神経の不全麻痺」という診断を下した。同日午後四時には「女王はゆるやかに沈降しつつあらせられる」という容態書を公布。駆けつけた親族が見守る中、女王は午後六時三〇分に息を引き取り、その一〇分後に「女王が平安のうちにお隠れになりました」と国民に伝えられた。

ビクトリア女王は一八歳で王位につき、八一歳で死ぬまでの六三年間、イギリスの君主であった。この期間を「ビクトリア朝時代」と言うが、この時代こそは、イギリスの国力が最も充実した時代である。強力な海軍力を背景に、アジア、アフリカ、太平洋に急速に植民地を広げ、一八六〇年代には二五〇万平方マイルだった植民地（植民地の人口約一億五〇〇〇万人）が、一八九九年には一一六〇万平方マイル（人口三億五〇〇〇万人）と、実に地球の面積の四分の一を占める史上最大の大帝国になっていた。この大帝国の〝国母〟こそがビクトリア女王であったのだ。

彼女の長い人生を俯瞰すると、

①一八歳で女王となり、二年後に従兄弟のアルバート公（ドイツ人）と結婚。理想の家庭を築く若妻として九人の子どもを生み、主婦と君主という二つの仕事を両立させ、国民に愛された時代（一八三七〜一八六一年）。

②愛する夫・アルバートを失い（一八六一年）、寡婦としてすごした時代。この時代は、喪服を着て、ウインザー城にこもりがちであった。こうした彼女に対して、共和主義者の台頭などもあり、女王退位論が起こるなど危機の時代でもあった（一八六一〜一八七六年）。

③一八七六年にインド女帝に即位。軍の統帥権が完全に議会に帰属するなど、政治的権力は時代とともに失っていったが、一方で国家の象徴として、権威ある女王として、近代君主制の模範として生きた時代（一八七六〜一九〇一年）。

と、三つの時期に区分できる。一八八七年には在位五〇周年、一八九七年には在位六〇周年の盛大な式典を行い、世界の植民地から首長や兵士が続々とロンドンに集まり、彼女に忠誠を誓った。

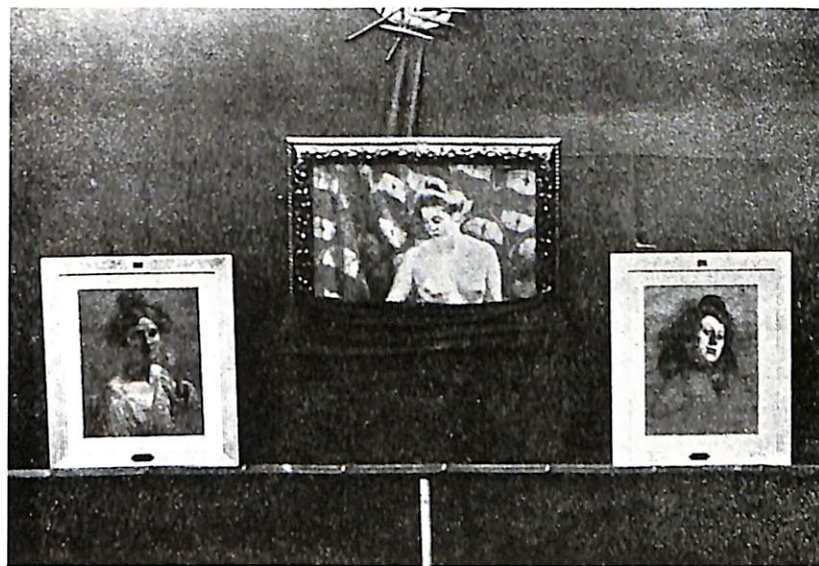
晩年の女王は車椅子に座って人々の前に現れ、凛とした声でドイツ訛りの英語を喋り、小太りな体に、世界中の尊敬と敬愛を集めていた。すでに初老に達していた皇太子は「母が天国にいくのを躊躇するのは、そこでは天使たちの方が上席につくからだ」と皮肉な冗談を言うほどであった。しかし、一九〇〇年の夏から食欲を失い、不眠に悩み、半年後にあっけなくこの世を去ったのである。

セント・ジョージ礼拝堂に安置された彼女の棺は、子どもの棺のように小さく、人々は〝一九世紀の栄華〟に静かに別れを告げた。

▲ビクトリア女王（写真中央）と、その家族・親族。1896年の撮影である。この年9月、ビクトリア女王は、これまでの英国王の誰よりも長い治世を誇ることになった。 Popperfoto ユニフォトプレス

美の出会い

下谷警察署長がクレーム！黒田清輝「裸体婦人像」で「朝妝」に続く〝風紀〟大騒動

◀白馬会第6回展の会場。黒田清輝の「裸体婦人像」が下半身を布でおおわれて展示されている。

明治三四年一〇月一七日から一一月一三日まで、東京・上野公園内にある内国勧業博覧会跡の第五号館で、白馬会第六回展が開かれた。ところが、同展に出品された、東京美術学校教授・黒田清輝（三五）の「裸体婦人像」、ラファエル・コランの裸体画習作とオデオン座の天井画下絵などが、画面の一部を布でおおわれて展示されることとなった。

公開前の、ちょうど作品の陳列が終わったところに、下谷警察署の吉永署長の臨検があり、風紀上差しつかえがある作品は、局部を露出しないようにとの注意があった。署長と話し合った白馬会側は、紫色の布で像の下半身をおおって展示することにしたのである。このあたりの経緯を、一〇月二三日の「時事新報」は次のように記している。

「美術と云へる点より見れば全然出品を禁ずべきにあらざれば、風俗取締の上よりして公衆の縦覧を禁じ、美術奨励の点より是を別室に集めて斯道に関係あるもの、みに閲覧を許さんと稟議したる事あり。その後署長と白馬会との間に交渉したるに、黒田清輝の如きは熱心に一般公衆に縦覧せしめたしと希望するより、多分警察は臨機の処置を為したるものならん」

すでに黒田は明治二八年にも、京都で開かれた第四回内国勧業博覧会に「朝妝」を出品し、同じような裸体画問題を起こしている。「朝妝」は、パリ留学時代にソシエテ・ナシオナル・デ・ボザールのサロンで入選した黒田の代表作である。関西の新聞各紙は、風紀上の問題の賛否から始まり、はては「裸体画は美術作品か否か」という議論まで巻き起こした。裸体画の必要性を信じていた黒田は、いささかも動じることなく、こうした物議を面白がり、友人の久米桂一郎にこう書き送った。

「世界普通のエステチックは勿論、日本の美術の将来に取って裸体画の悪いと云う事は決してない。悪いどころか必要なので大に奨励す可きだ。（略）道義上はオレが勝だよ」

この時は審査総長をつとめた帝国博物館総長・九鬼隆一が作品に理解を示し、排すべき理由はないという手紙を警視総監に送り、そのまま展示されることになった。ところが美術館には非難の投書が相次ぎ、眉をひそめる観客も少なくなかった。それまでの日本の美術の世界では、浮世絵などに女性の裸体を描いたものが数多く見られるが、この「朝妝」のように一糸まとわぬ裸婦を描いた作品が、官の主催する啓蒙的な意味を持つ展覧会で公衆の面前に掲げられることが疑問視されたのである。こうした裸体画問題について東京国立文化財研究所の主任研究官である山梨絵美子氏は、次のように語ってくれた。

「幕末に日本を訪れた外国人は、日本人が人前で肌をさらすことに無頓着である点に驚いています。欧米並みの文明国をめざした明治維新政府は、明治五年に『違式詿違条例』（現「軽犯罪法」の前身とも言える法）を出し、これを禁止しました。以来、裸体を公然と見せることははばかられるようになったのです。これが裸体画についても問題となったのですが、黒田は日本人の作品が国際的な美術の世界に出ていくには、裸体画の勉強は必要だという考えに立っていました」

「朝妝事件」から六年、取締り側の無理解と頑迷さ加減はあいもかわらないどころか強硬になり、第六回展では初めて警察が介入した。黒田はあきれながらも「報知新聞」で洋画における裸体画の意味を説くとともに、師・コランの作品を解説している。

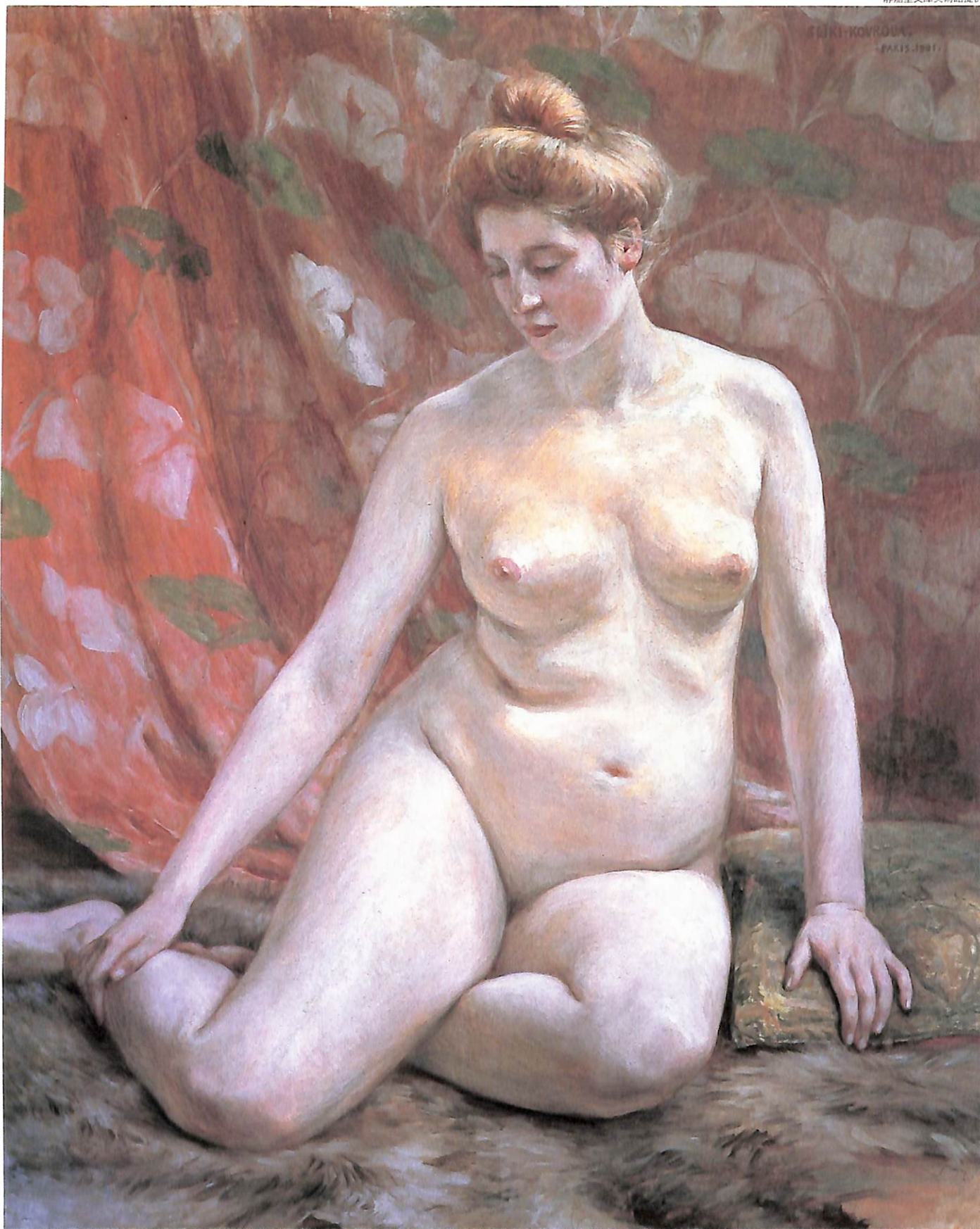
「今度幕を張られたコラン氏は僕が七年間も就いた先生で、年は五十前後だが、巴里の博覧会などでは必ず審査官となる人だ。其画は仏国政府の注文によりオデオンてふ芝居の天井に掲げられた下絵で、図は技芸の旧時代去つて新時代の曙光を放つ意匠に成り、新時代の女神が名誉の花を左手に掲げ、其下に男性が後向になつて幕を明けて居るのであるが、女神の方は兎に角此男性の臀部に迄幕を張るとはチト注意が行届き過ぎたやうだ」（一〇月二五日）

裸体画についての無理解はその後も続き、明治三七年の白馬会第九回展では、青木繁の名作「海の幸」が女性や子どもは入ることのできない裸体画室に特別展示されたのである。

▶黒田清輝「朝妝」。明治二六年。油彩、一七八・五×九八センチ。フランス留学時代の集大成として描かれた作品。日本での展示にあたっては、黒田自身ある程度の批判を予想していたが、あえて出品することにより、日本の画壇の刷新をはかることを期待した。作品は、第二次世界大戦で焼失。

▲白馬会第6回展広告。「明星」第17号（明治34年11月号）に掲載された。

日本近代文学館提供

静嘉堂文庫美術館提供

▶黒田清輝「裸体婦人像」。明治三四年。油彩、一二六・二×八九センチ。文部省から美術に関する制度や教授法の調査・研究を依頼され、二度目のヨーロッパ滞在中に制作。

明治大学刑事博物館 東京・千代田区

拷問・刑罰など〝苦痛や屈辱〟のおぞましい歴史をあえて公開！

桑原茂夫

▶江戸・小伝馬町の牢屋敷で行われていたという石抱きの拷問。石を積み上げていくたびに、苦痛はいや増していく。

山口隆司（4点とも）

明治大学刑事博物館の展示スペースでは、常設展として「道具で知る江戸の捕りもの・拷問・刑罰の世界」展が開かれている。十手など各種の捕りもの道具が展示されているほか、主として江戸・小伝馬町の牢屋敷の中で行われていた拷問・刑罰の様子が、実際に使われていた道具などを用いてリアルに示されている。それぞれの拷問・刑罰に、当時のイラストが添付されており、一層わかりやすく、その分おそろしい展示となっている。

さて江戸の拷問は「鞭打ち」から始まって「石抱き」「海老責め」「吊るし責め」とエスカレートしていくが、比較的よく知られている「石抱き」が、想像していた以上にすさまじい拷問だったことを知った。まず座るところが尋常ではない。三角形の木材が並ぶ上（「算盤板」とは言い得て妙である）に正座する。これを実物大で見せられると、苦痛が推しはかられてゾッとする。しかもその腿の上に、重さ四〇キロはあろうかという重石が載せられるのだ。学芸員の伊能秀明さんによると、三、四枚重ねられると、血反吐を吐くほどの激痛に襲われるそうである。それだけおそろしく、より効果的な（！）拷問具だったわけだ。

それでもなお、求める情報が得られないと、次は「海老責め」である。これは、体を不自然に折り曲げ固定することで血流をとどこおらせ苦痛を与えるという拷問で、その姿勢や、たちまち全身紅潮する様子と、海老をゆでる時のイメージを重ねてこの名がつけられた。

身体をロープで縛って梁から吊るす「吊るし責め」も相当厳しい拷問で、呼吸困難をともなう苦痛で責められる。

このような江戸の拷問具・拷問術のほかに、ここにはヨーロッパの有名な拷問具「鉄の処女」もおかれている。

「鉄の処女」は、外見は何の変哲もない鉄製の女性像だが、その胴体部分の内側に長い針が無数に埋めこまれており、これが胴体部分に押しこめられた人を徐々に刺していくというもの。想像するだにおぞましい。

ほかにも、さらし首や火あぶり、ギロチンなど、いろいろな刑罰が展示されているが、拷問にせよ刑罰にせよ、人に耐えがたい苦痛や屈辱を与えることを追求してきた歴史は、「人権抑圧の歴史」（伊能さん）として、けっして闇に葬られるべきではないだろう。

そもそも、拷問具や刑罰具を展示に供していたヨーロッパの街角の光景に触発され、昭和四年に開設されたというこの博物館は、おそらくこの世になくてはならない博物館のひとつなのだ。

▲江戸の捕りもの道具。凶悪犯を追い詰めてから捕らえる刺股（さすまた）などの道具だ。それぞれに突起物もあって鋭い武器のようだが、極力、体を傷つけない工夫がほどこされている。

▼ヨーロッパの代表的な拷問具「鉄の処女」。胴体内に埋めこまれた鉄の針はあまりにも長く、また鋭い。これでは、胴体を閉められたらひとたまりもなかっただろう。

▲江戸の刑罰のうち、鋸で首に傷をつけておいてから、生き埋め状態で首をさらす刑。たしかに、見せしめにはなっただろうが、このような刑を与えるものに対する反発も、呼び起こしたことだろう。

●明治大学刑事博物館
千代田区神田駿河台一－一
☎〇三－三二九六－四四三一
JR、地下鉄御茶ノ水駅、新御茶ノ水駅下車、徒歩五分
開館時間＝平日は一〇時～一六時半
　土曜日は一〇時～一二時半
休館日＝日、祝、お盆、年末年始、夏期は土曜日も。
入館料＝無料

「ヒーロー」の村井吉兵衛か「天狗」の岩谷松平か トップの座をめぐって東西巨頭が激突 明治の「タバコ大戦争」！

◀当時のタバコ小売店風景。この頃、岩谷商会や村井兄弟商会のほかにも、東京の千葉商店（看板の右端）などが、しのぎをけずっていた。
毎日新聞社

まだタバコが民営だった明治三〇年前後、関東と関西のタバコ王が激突した。世に言う「明治のタバコ戦争」である。かたや、奇抜な宣伝文句を次々に打ち出して、〝タバコ大王〟を自称した銀座の岩谷松平。かたや、京都から東京へ攻めのぼってきた村井吉兵衛。いずれも市場の全国制覇をめざして華やかに、また激しい販売・宣伝合戦を展開した。

新聞全面を使って広告 やられたらやり返す！

明治三四年一一月二五日の「東京朝日新聞」に「広告　公衆各位の御参考の為め弊社より岩谷商会主岩谷松平氏に宛発送したる書状全文の写左の通り広告致候也」と題した、ざっと二八〇〇字余の文章だけの全面広告が掲載された。

これは五日前の一一月二〇日、村井兄弟商会が岩谷商会にこういう書状を送ってあると訴えたもので、概要、次のような内容だった。

当時、村井兄弟商会寄りと噂され、しきりに岩谷商会、ならびに岩谷松平（五二）攻撃を繰り返していた新聞、「二六新報」について「これらの記事が当社の教唆によるかのごとく言われ、また、そ

のことを信じてか、当社に対する敵意をあらわにした広告文を多くの新聞に出されている。村井兄弟商会は一連の記事と何ら関係はない」といったことが延々と記されている。

実は「東京朝日新聞」の広告の数日前、一一月一九日に、岩谷松平は個人名で、地方新聞数紙に「国患を忠君愛国の人士に檄す」という意見広告を出している。それは「外資某煙草会社に買収せられたるか、某新聞は去る十月二十六日以来、殆ど全力を注ぎ岩谷松平及び天狗煙草を攻撃非難せり」と、冒頭からいきなり村井兄弟商会、「二六新報」を名ざしているにひとしい文面になっていた。

まさに、やられたらやり返す、「タバコ戦争」のホットな一場面を象徴するような出来事だった。

博覧会場には大広告塔 自転車宣伝隊は朱一色

村井兄弟商会の村井吉兵衛（三七）は元治元年（一八六四）、京都生まれで生家がタバコ商だった。米国流の両切り紙巻きタバコ製造を始めたのは明治二四年で、二〇本入りパイプつき四銭の「サンライス」はハイカラを歓迎する風潮に乗り、春早々の発売と同時に人気を呼んだ。「サンライス」には美人画や風景写真カードを入れてあり、子どもがそのカードをせがむので、タバコを買うなら「サンライス」ということにもなり、売れ行きを伸ばしていった。

さらに明治二七年三月、バージニア葉を使った「ヒーロー」を紙パイプつき一〇本、三銭で発売、こちらも大がかりな宣伝であっという間に広まった。まず東京、京都をはじめ、各地方都市で「ヒーロー」と書いた数十本の白いのぼりを立て、馬車数台をつらねた音楽隊パレードを行い、大いに話題となったのである。

明治三六年三月一日から大阪の今宮で開かれた第五回内国勧業大博覧会では、会場正門の横に、一二〇尺（約三七メートル）という、門より四〇尺（約一二メートル）も高い塔を立て、新発売の「オールド」（一〇本、四銭）を広告した。この塔には一万五〇〇〇燭光ものサーチライトがつけられていて、四方四八キロからその光を見ることができたという。

一方、岩谷松平は嘉永二年（一八四九）二月二日、鹿児島県川内の代々酒造で知られた旧家に生まれた。明治一〇年、西南戦争の兵火にあったため上京し、銀座三丁目に呉服、タバコなどの店を開いたが、明治一七年、口つき紙巻きタバコの元祖と称する「天狗印煙草」を製造、販売に乗り出した。銘柄は二〇本で三銭の「岩谷天狗」、同四銭の「愛国天狗」、五〇本で一〇銭の「大天狗」などである。

岩谷松平はとにかく赤が好きで、本店を朱で塗りつぶし、朱色の装束の宣伝隊を引き連れて自転車や馬車で街中を走りまわった。「日本煙草王」「世界煙草大王」とみずから名乗ったりもした。

従来のタバコが「刻み」だけだったところへ新たに登場した紙巻きタバコは、見た目、味ともに文明開化そのものとあって、多くの人々に受けいれられ持てはやされていったのである。

国産紙巻きタバコでは先発の岩谷商会は、「タバコと言えば天狗」というぐらい評判だった。だが、村井兄弟商会は明治二四年、東京・室町に支店を開設して以後、全国的に宣伝・売りこみを推し進め、三〇年代には押しも押されもせぬ業界トップの座を確立した。

この激しい「タバコ戦争」に終止符が打たれる日が来る。明治三七年、タバコ事業が政府所管になったのである。法案はこの年三月二三日、帝国議会に上程されたが、その前月の二月一〇日、日露戦争に突入しており、軍費調達が急がれ同年七月一日から施行となった。この時、次のような報告が提出されている。

「明治三三年ヨリ三五年ニ至ル間、煙草製造ヨリ生スル年間所得平均額二百十三万三千八百八十九円、内、百二十四万円ハ村井商会ノ所得高」

もの珍しさと時流にマッチした紙巻きタバコは売れに売れ、このような高利益をもたらした。ちなみに明治三七年度の紙巻きタバコ製造本数は口つき、両切りで計五二億五四三四万四四五二本となっている（『専売局第七回年報』）。

専売制で終止符を打ったこの「タバコ戦争」について「たばこと塩の博物館」主任学芸員の岩崎均史氏は語る。

「大企業がまだ、あまりなかった当時、タバコはずばぬけた高収益産業でした。だから、よりよいパッケージを作るため、自前の印刷工場まで持つことができたのです。そして激しく競いあった結果、広告・宣伝のレベルアップを生み、その後の日本の文化に大きく貢献することになったのです」

タバコが政府の所管となって以後、村井吉兵衛は一一二〇万円という多額の補償金を受け、これを資本に三七年一二月一日、村井銀行を設立し、銀行家へ転じた。大正一五年一月二日没、六二歳。

岩谷は補償金を辞退し「さすが天狗煙草王、いさぎよい」ともてはやされたが、位牌に写真を入れるという珍商売や養豚などの新事業はあまり成功しなかったという。大正九年三月一〇日没、七一歳。

▲村井吉兵衛の別邸だった長楽館。京都の円山公園にあり、現在は公開されている。

京都府立総合資料館提供

▶東京・銀座の岩谷商会の広告。「勿驚（おどろくなかれ）煙草税金二百万円」の広告が人々の注目を集めた。

▲村井兄弟商会の代表的なタバコ、「ヒーロー」の広告。

「グラヒック」

▲明治43年、欧米観光のため、夫人と令嬢をともない、自宅を出る村井吉兵衛（運転手の後部）。

▶「ピンヘッド」と「ザホーク」、いずれも村井兄弟商会のタバコ。同商会のタバコは多色刷りで美麗な包装デザインだった。

▼岩谷商会の「輸入退治天狗」。"国家稗益"の文字も。

▼岩谷商会の「東洋煙草大王」。日本的なデザイン。

▲清国、ドイツへ謝罪使派遣(7月11日)「扶清滅洋」を掲げる「義和団」が前年、独公使を殺害したため、光緒帝の弟・醇親王(19)が六十余人の随員とともに出発。写真は出帆地の上海で。

▼鶴岡の発明家・斎藤外史の力織機、好調(7月)輸出用羽二重専用機。性能がよいうえ、輸入機の10分の1という安さで、大正9年までに1万台を製造した。

「目で見る鶴岡百年」

▶ロンドン暮らしの夏目漱石(7月20日)前年9月、文部省の命で英語研究のため留学。学費不足と孤独感から、強度の神経衰弱に。写真はロンドンでの下宿。

出口保夫提供

▼民間初の蒸気機関車製造(7月)明治29年に、日本最初の鉄道車輌製造会社として大阪に設立された汽車製造会社が、英国製1B1タンク機をもとに、2年がかりで形式230を完成した。

交通博物館提供

▲ホームズ復活(8月)英月刊誌「ストランド・マガジン」が、ドイルの新作「バスカヴィル家の犬」を連載。10年前、滝壷に落ちたはずの名探偵が再登場した。

▼フィリピン初代総督にタフト(7月4日)革命軍を制圧した米国は、占領体制を改め軍政から民政に移行した。写真は、植民地政府高官らと談笑するタフト。

PPS

明治34年7月

1(月)●日本広告会社・電報通信社創立(電通の前身)。
2(火)●清国北部で日本製タバコの需要増大と新聞に。
3(水)●海軍、台湾・澎湖島の馬公を要港に指定。
4(木)●前年の婚姻は約三〇万組、と新聞に。
5(金)●東京市、小学校の夏休み三〇日を四〇日に。
6(土)●外務省、移民会社が同盟会を組織して過剰競争を抑制したため、ハワイ移民禁止を解除。
7(日)●横浜の瓦斯局が施設拡張。供給量が四倍に。
8(月)●仏で、自動車の市街地速度を一〇キロに制限。
9(火)●社会政策学会、社会民主党の禁止に関し、学会は社会主義とは違うと強調。
10(水)●日本郵船、外国航路に初めて邦人船長を採用。
11(木)●貴族院議長・近衛篤麿、清国・韓国視察に出発。
12(金)●スト中のカナダの鮭鱒漁船員が、ストに参加しない日本人漁船員を孤島に監禁。
●独の貴族が、復活しつつある決闘に反対決議。
13(土)●ブラジル人がパリで、飛行船による一〇キロ区間往復飛行に挑戦、墜落して失敗。
14(日)●神奈川県久里浜で、ペリー上陸記念碑除幕式。
15(月)●高峰譲吉、米でアドレナリン抽出の特許取得。
16(火)●警視庁、店頭の覆い蓋のない食料品に罰則。
17(水)●警視庁、雑誌「黒龍」の星亨惨殺事件記事を、秩序紊乱・被告人救済のかどで告発。
18(木)●横浜の私設保税倉庫が認知され好評と新聞に。
19(金)●東京・大森海水浴場で男女混泳禁止と新聞に。
20(土)●黒岩涙香ら、「万朝報」を軸に「理想団」を結成。現実社会を理想社会に近づけることをめざす。
21(日)●米国のフィッツモリス、新聞社の企画で世界早まわりに挑戦、六〇日一三時間余を記録。
22(月)●陸軍兵器廠、軍器として仏製自転車を購入。通信隊の野戦電信線架設作業に使用する。
23(火)●警視庁、商品や広告に、「警視庁試験済み」「認可済み」などと表記することを禁止。
24(水)●清国、改革の一環として外務部を設置。
25(木)●『幼稚園唱歌』刊行。「鳩ぽっぽ」「お正月」など収載。
26(金)●「巡査看守退隠料及び遺族扶助料法」を制定。
27(土)●貿易調査会、「義和団事件」の賠償金で日清貿易の機関銀行として日清銀行設立を建議。
28(日)●前年創立の楽譜著作権会社が解散、と新聞に。
29(月)●七月現在の華族は七七八人、と新聞に。
30(火)●日本鉄道、上野―平間海岸線回遊乗車券発売。
31(水)●「義和団事件」以来北京に駐留していた連合国軍隊が撤退開始。

▶最後の琉球国王死去(8月19日)第2尚氏19代・尚泰、58歳。首里城に生まれ4歳で王位継承、島津藩への服属、維新政府下の藩王と激動を生き、明治18年侯爵。以降、東京に住んだ。

▼京釜鉄道ようやく着工(8月20日)京仁鉄道と接続する北端、永登浦で起工式を挙行。南端の釜山では翌日起工した。朝鮮民衆の抵抗や資金難などで、完成は大幅に遅れた。

「太平洋」

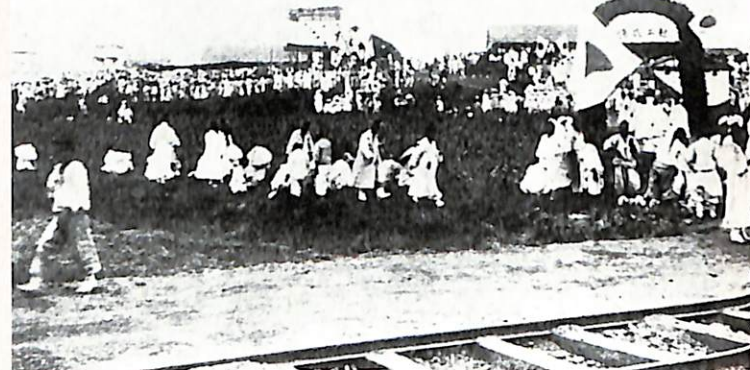
「太陽」

毎日新聞社

▲森矗昶、自転車通勤(8月)千葉県第1号の自転車を買ってもらい、家業である勝浦のヨード工場にかよった。電気化学工業を軸とする、後の新興財閥・森コンツェルン総帥の修業時代だった。

▶銀座に自動車販売店が登場(8月)松井民次郎が「モーター商会」を設立し、翌月、米国から輸入した、オリエント、オールズモビル、デュリエを陳列、市民を驚かせた。写真は、明治36年の社屋。

佐々木烈『明治の輸入車』／日刊自動車新聞社提供

▲正木直彦、東京美術学校長に就任(8月9日)昭和7年まで32年間も勤続。後、帝国美術院長にもなり、日本の美術行政・教育にはたした役割は大きい。

▼「インディアン」隔離政策(8月9日)米政府は、新たにテキサス州北部の居住区も白人に開放。原住民は指定地へと追われた。写真はオクラホマ準州居留地で。

CORBIS-BETTMANN／PPS

明治34年8月

1(木)●中央線の八王子―上野原間が開業。
2(金)●陸軍が在北京の連合軍から軍馬購入と新聞に。
3(土)●米国大統領、野牛の保護区を設置すると声明。
4(日)●酷暑で氷一貫目六銭が一五銭に高騰。
5(月)●東京市の一～七月の火災は一八〇件と新聞に。
6(火)●感化法施行規則公布。在院者教育など規定。
7(水)●東京―横浜と鎌倉―大磯間に電話開通。
8(木)●各地の銀行破綻で郵便貯金が増加、と新聞に。
9(金)●米国・テキサス州北部の原住民居住区が白人に開放される。
10(土)●東京市、捕らえたネズミ一匹ごとに交換した抽選券の第一回抽選会実施。一等賞金五〇円。
11(日)●米で鉄鋼労働者が賃上げ要求し、ストに突入。
12(月)●モルモン教の宣教師が横浜に着く。
13(火)●日本郵船横浜支店の荷揚げ労働者が、賃上げを要求してストライキ。
14(水)●ライト兄弟設計、バイスコプフ製作のエンジンつき無人機が初飛行、九〇〇メートル飛ぶ。
15(木)●鳳(与謝野)晶子、歌集『みだれ髪』刊行。
●英政府、ボーア人に降伏要求。
16(金)●千葉県勝浦で漁民が漁場争い、負傷者多数。
17(土)●東京の日本石油倉庫で火災、放水は効果なく消火に打つ手なし。
18(日)●米価暴騰、全国二〇の米穀取引所が売買停止。
19(月)●最後の琉球国王・尚泰が、東京で死去。
●台南での日本種タバコ試作は好成績と新聞に。
20(火)●韓国・永登浦で、京釜鉄道起工式。
21(水)●第二インター系労組代表、コペンハーゲンで、無政府主義の締め出しをはかる国際会議を開催。
22(木)●「時事新報」、「五〇万円以上の資産家」全国四四一人の氏名を掲載。
23(金)●奥羽南線の山形―楯岡間延長開業。
24(土)●東京の労組有志が労働者懇話会を開催、普通選挙実施・工業条例制定運動の実施を決議。
25(日)●島崎藤村、詩集『落梅集』を刊行。
26(月)●バルカン諸国の新聞各紙、ロシアの対外膨張政策に不安を表明。
27(火)●警視庁の囚人護送馬車が小児を轢き死亡さす。
28(水)●石川島造船所初の大型船「交通丸」が進水。
29(木)●清国が科挙制度を改革、四書五経の古典的教養を試す試験科目「八股文」を廃止する。
30(金)●官選知事の月給は三〇〇〇から四〇〇〇円、と新聞に。
31(土)●今年度米作予想は平年作上回る四三〇〇万石。

CORBIS-BETTMANN／PPS

◀**アフリカのアシャンティ王国滅亡（9月26日）**金・奴隷貿易を求める欧州列強に抗し17世紀末からガーナの森林地帯を支配したが、ついに英国の軍門に降った。中央が国王。

「太平洋」

▲**ロンドンの戦艦「三笠」回航員（9月）**「三笠」は英・ビッカース社で明治32年に進水、艤装工事中だった。竣工は35年3月。写真はロンドンに派遣され、水晶宮で休日を楽しむ回航要員。

北海道新聞社

▲**「北海タイムス」創刊（9月3日）**北海道の有力紙、北海道毎日新聞・北門新報・北海時事が政友会支持で一本化。写真前列左から二人目が後の社長・阿部宇之八。昭和17年、戦時統合により北海道新聞となった。

▶**トルストイの訪問客（9月12日）**ロシアのクリミヤで保養中の大先輩を、結婚したばかりのチェーホフ（左）が訪ねた。二人は互いの作品の愛読者で、辛辣な批評家同士だった。

▶**日本女子大が第1回運動会（10月22日）**創立委員・渋沢栄一の別邸、東京・王子の飛鳥山庭園で開催。同大は4月、成瀬仁蔵が小石川に開校、二百余人が在学していた。

日本女子大学成瀬記念館提供

▼**北京議定書調印（9月7日）**「義和団事件」に関して、日・露・独など11ヵ国が賠償請求。清は多額の支払いと外国軍隊駐留を承認した。

明治34年9月

1（日）●東京・上野で第一回全国窯業品共進会開催。

2（月）●ルーズベルト米副大統領、「棍棒を持ち、穏やかに話す」との外交方針を示す（「棍棒外交」）。

3（火）●札幌で「北海タイムス」創刊。

●中江兆民、癌闘病記『一年有半』を刊行。

4（水）●蔵相、銀行設立に関し、資本金五〇万円以下は認めない方針を地方長官に指示。

5（木）●第一銀行、韓国大蔵省と、租税担保の五〇万円貸付契約に調印。

●「義和団事件」の清国謝罪使一行が東京着。

6（金）●マッキンリー米大統領が狙撃される（14日死亡。ルーズベルト副大統領が昇格）。

7（土）●北京で、「義和団事件」に関する最終議定書調印。清国、一一ヵ国に華北への駐兵権を承認。

8（日）●農商務省、米国より種牡馬一六頭を購入。

9（月）●東京市、水道工事ローンの期間を、一律二四ヵ月から、工費に応じて六～二四ヵ月に変更。

10（火）●大日本労働団体連合本部結成。片山潜は労資協調路線に反対し、早くも二一日に脱退。

11（水）●山梨県農工銀行債券偽造事件の犯人が自首。

12（木）●東洋雄弁会が発会式。政党に関係せず、世論の原動力となることをめざす。

13（金）●長崎で、英米脱走水兵に領事が九～二八円の懸賞金。

14（土）●対清貿易復活見こし、横浜市場活況と新聞に。

15（日）●外国勲章受勲総数は一六三六件、と新聞に。

16（月）●青梅線で、置き石により機関車が脱線転覆。

17（火）●横須賀遊廓に繰り出した水兵がささいなことから暴徒化、憲兵隊が出動。

18（水）●「時事新報」、埼玉県の女工虐待事件を報道（以後、女工虐待への関心高まる）。

19（木）●横浜貯蓄銀行、資本金過小で設立不許可。

20（金）●東京控訴院で、足尾銅山鉱毒事件の公判開始。

21（土）●前駐清公使・小村寿太郎を外相に任命。

22（日）●東京猟友会、密猟防止に狩猟法励行を決議。

23（月）●製麻会社四社、蚊帳糸の合同販売協定を締結。

24（火）●日清、重慶の日本専管居留地取り決めに調印。

25（水）●佐世保の女医、清の日文学校医に招聘される。

26（木）●アフリカのアシャンティ王国、英のゴールドコースト植民地に統合される。

27（金）●北海道炭鉱鉄道有志により北海工学校が開校。

28（土）●仏東洋艦隊司令官・ポチエー中将が表敬参内。

29（日）●日本郵船横浜－上海航路が一日短縮と新聞に。

30（月）●仏で、時速三〇キロ以上の乗りものに車両番号。

CORBIS-BETTMANN／PPS

▲**ホワイトハウスの晩餐会に黒人出席（10月16日）**黒人指導者、ブッカー・ワシントン（45）を、ルーズベルト大統領が招待。南部白人社会を激高させた。

▼**台湾神社完成（10月27日）**明治28年の領有の際、戦病死した近衛師団長・北白川宮能久を祀るため、台北郊外に建築。官幣大社とされ、台湾民衆皇民化政策の象徴となった。

▲**熊本・貧児寮の「卒業式」（10月13日）**この頃、孤児の救済は篤志家の手にゆだねられていた。経営は苦しく、食物に困ると孤児を引き連れ残飯をあさることもあった。

「太平洋」

「太陽」

「目で見る舞鶴・丹後の100年」／郷土出版社提供

▲**舞鶴鎮守府開庁（10月1日）**日本海防備のため設置。横須賀、呉、佐世保に次ぐ4番目の鎮守府で、軍港都市・舞鶴の幕開けだった。写真は初代長官・東郷平八郎（54）と官邸。

▶**初の国産無線機（10月18日）**マルコーニに刺激され海軍が開発に成功、「34式」と名づけた。艦船間の通信距離約74キロ。写真は明治36年、「信濃丸」に装備された改良型。

明治34年10月

1（火）●海軍、舞鶴鎮守府を開庁。

2（水）●秋物の絹織物は前年の二割安、と新聞に。

3（木）●警視庁、射倖心をあおる富籤類似行為を禁止。

4（金）●八月一日開業の中央線八王子駅構内販売の競争入札は六〇一円余で落札、と新聞に。

5（土）●露・清、中国東北部からの露軍撤退交渉を開始。

6（日）●清国、西太后の名で国政改革の上諭を発表。

7（月）●九州で暴風雨、被害甚大。長崎県五島沖では、「鶴彦丸」が沈没し、四八人死亡。

●上武鉄道（現・秩父鉄道）の熊谷－寄居間開業。

8（火）●横浜港停泊中の英米軍艦から水兵三九人脱走。

9（水）●一～七月に、性病の水兵一一六三人と新聞に。

10（木）●清国、勅令で「売官」を禁止。

11（金）●横浜公園クリケット倶楽部運動場で、横浜と神戸の外国人が野球大会、入場料一円。

12（土）●横浜で脳脊髄膜炎が流行、と新聞に。

13（日）●ロシア各地で、飢えに苦しむ民衆が蜂起。

14（月）●北海道鉄道速成同盟が、大蔵・逓信両省に請願。

15（火）●本年の大阪の破産申請、すでに二九一件。

16（水）●林駐英公使、英外相と日英同盟交渉に入る。

17（木）●内務省、サッカリンなどの人工甘味料規制を発表。人工甘味料含有の飲食物の販売を禁止。

●黒田清輝が白馬会展に「裸体婦人像」を出品、警察は風俗を乱すと下半身を布でおおわせる。

18（金）●海軍省、無線電信機を兵器として採用。

19（土）●東京・深川座で河竹黙阿弥の「弁天小僧」が無断上演され、版権問題起こる。

20（日）●大日本武徳会、上野で山岡鉄舟追悼武術大会。

21（月）●小村外相が各国公使に、永代借地上の家屋への課税徴収を猶予しないと通告。

22（火）●メキシコで第二回パン・アメリカン会議。紛争を平和的に解決することで合意。

23（水）●田中正造、足尾鉱毒事件に抗議して議員辞職。

24（木）●テキサス州のテイラー夫人、女性として初めて、ナイアガラ滝を樽で落下する冒険に成功。

25（金）●大審院、慣習としての根抵当を有効と判示。

26（土）●精養軒が、東海道線急行列車の食堂車運営権を二七〇〇円で落札。

27（日）●松本市で労働者大懇親会と普選演説大会開催。

●台湾で、台湾神社鎮座式挙行。

28（月）●日本鉄道がビュッフェ導入を計画、と新聞に。

29（火）●甲武鉄道、年一割四分五厘の配当決める。

30（水）●神戸ライジングサン石油、姫路にタンク設置。

31（木）●国学院が夜学部を設置する、と新聞に。

◀岡倉天心、インドへ出発（11月21日）翌年10月まで滞在。3年前に東京美術学校校長を追われて以来、目を海外へ向け、日本の伝統文化の再評価に興味を移した。

▲東海道線に食堂車登場（12月15日）新橋—神戸間急行に連結、洋食のみ提供。官営鉄道では初めてだった。3等客は利用できず、急勾配の区間は連結しなかった。

「太陽」

▶初の自動車レース（11月3日）東京・上野の不忍池畔で行われた、大日本双輪倶楽部主催の自転車競走会余興に、ブルウル兄弟商会が協力。4輪車、3輪車、2輪車自動車が登場。

「太陽」

毎日新聞社

◀八幡製鉄所、にぎやかに開業祝う（11月18日）春の溶鉱炉火入れに続き、転炉も作業開始、鋼生産を開始した。この日、大相撲興行・軍楽隊演奏など華やかな祝典を挙行。

▶太平洋画会結成（11月21日）浅井忠らの門下生・吉田博（中央）が、明治美術会を解散して組織。黒田清輝らの白馬会に対抗し、色彩より形態を重視する画風を特徴とした。

▲宮城県で陸軍大演習（11月6日）南・北に分かれ、仙台の北方、築館・高清水間を戦場にして両軍が実戦さながらの訓練。8・9日には愛馬「友鶴」に騎乗した天皇が統監した。写真は最終日の接近戦。

明治34年11月

1（金）●秋田県能代港で大火、住宅など一六一棟焼失。
2（土）●国民一人当たりの米作高は七斗余、と新聞に。
3（日）●ハワイに在留日本人会設立。
4（月）●独でワンダーフォーゲル運動が始まる。
5（火）●政府、第一銀行に韓国での銀行券独占的発行を認可。
6（水）●宮城県で陸軍大演習始まる（～11日）。
7（木）●日本図案会創立。
8（金）●不景気で日本酒生産が二～五割減、と新聞に。
9（土）●東京・上野で一二時間長距離競走が行われる。
10（日）●高松—岡山間連絡船が衝突・沈没、二〇人死亡。
11（月）●台湾総督府民生部に、警察本署と総務・財務・逓信・殖産・土木の五局を設置、民政に本腰。
12（火）●八幡製鉄所、第一転炉に火入れ。
13（水）●東京で玉川砂利電気鉄道敷設計画と新聞に。●愛知県警が、名古屋の九人殺害犯発見者に一〇〇円、逮捕協力者に二〇〇円の懸賞。
14（木）●北海道釧路で大火、三五〇戸焼失。●イタリアで、農業労働者総連合設立。
15（金）●東京のゴミは、焼却場開設まで洲崎埋め立て地に埋却する計画、と新聞に。
16（土）●米国で一ﾙﾏｲ自動車レース、優勝は五一秒八。●第一回メキシコ移民八三人が横浜を出航。
17（日）●横浜オリエンタルホテルが、もらい火で全焼。
18（月）●米国、運河の自由平等航行権を保証する条件で、パナマ運河の建設と管理の独占権を獲得。
19（火）●新潟産石油が売り出され、出足好調と新聞に。
20（水）●全国農工銀行大会、貸付資金不足から、割増金つき農工債の発行を決議（不許可）。
21（木）●岡倉天心、インド巡歴のため神戸を出航。●明治美術会の中堅が、太平洋画会を結成。
22（金）●新任の清国公使・蔡鈞が横浜着。
23（土）●陸軍が、軍人遺族扶助料増加を提起と新聞に。
24（日）●台湾で、不作に悩む現地住民が郵便局などを襲撃、二〇人を殺害し金品を強奪。
25（月）●福島警察署、労働者団体・日鉄矯正会福島支部に解散命令。
26（火）●新海苔相場が五年来の安値、大森産大判一〇〇枚が、一円三〇銭～一円五〇銭。
27（水）●米陸軍、陸軍大学校の創設を発表。
28（木）●人力車夫が京浜電鉄に開通延期申し入れ（12月10日、黙殺され襲撃準備、警察が阻止）。
29（金）●不景気で、横浜港は船の姿ない日も、と新聞に。
30（土）●近年、女学生にえび茶の袴が流行、と新聞に。

証言・あの日この日
福田英子（35）

11月3日（日）　〈さらば今一度元気を鼓舞して、三児を健全に養育してこそ妾の責任も全く、良人の愛に酬ゆるの道も立てと、自ら大いに悔悟して、女々しかりし心恥かしく、ひたすらに身の健康を祈りて、療養怠りなかりしに、やがて元気も旧に服し、浮世の荒浪に泳ぎ出づるとも、決して溺れざるべしとの覚悟さへ生じければ、亡夫が一周年の忌明けを以て自他相輔くるの策を講じ、ここに再び活動を開始せり〉（福田英子『妾の半生涯』）

明治自由民権運動の婦人闘士・福田英子は、夫・福田友作の死後、子ども三人を抱えて苦悶懊悩のあまり、神経衰弱にかかり、病臥する日々を送っていた。しかし〈妾は常に戦へり〉とみずから言うように、負けず嫌いの英子は、夫の一周忌にあたって、この日、角筈女子工芸学校の設立を宣言する。　（山崎行太郎）

◀山本五十六、海軍兵学校入学（12月）新潟の長岡中学卒業後、合格、江田島に向かった。入学成績は200人中2番。卒業とともに日本海海戦に参加、砲弾を受け重傷を負った。

▼駆逐艦「暁」完成（12月14日）この頃、日本海軍はイギリスの造船所に次々と新型艦を発注していた。「暁」もその1隻で、日露戦争には高速性能を生かして重用された。

CORBIS-BETTMANN

▲マルコーニ、大西洋横断無線通信に成功（12月12日）イングランドのポルデューから「S」の文字を打電、カナダのニューファンドランド島で受信した。

呉市企画部海事博物館推進室提供

食パン製造及配達
菓子パン、卸、小賣
西洋食品及諸鑵詰
本郷區森川町壹番地
中村屋
相馬良
第二製造場
本郷蓬莱町廿一番地
中村屋

中村屋提供

◀▲中村屋、東京・本郷に開店（12月30日）相馬愛蔵・黒光夫妻が、パン・菓子の製造・販売をしつつ、バターなど西洋食品の普及につとめた。後の新宿中村屋である。

明治34年12月

1（日）●郵便切手を、五厘・一銭・二銭に限定。
2（月）●米のジレットが替え刃式安全剃刀の特許申請。
3（火）●ルーズベルト米大統領、独占支配防止のため、大企業の合併規制を検討すると発表。
4（水）●清国の燐寸需要増で、軸木価格高騰と新聞に。
5（木）●内務省と文部省の協議で、従来禁止されていた神職・僧侶の小学校教員兼務を許可。
6（金）●衆院図書館、蔵書一万二〇一四冊でスタート。
7（土）●慶応義塾のラグビーチームが、横浜の外国人チームと初の国際試合、五対三五で敗れる。●英・伊、スーダンとエリトリアの境界を画定。
8（日）●歳暮用佃煮折詰めは一五銭から一円と新聞に。
9（月）●米国で、二人一組の六日間耐久自転車レース、優勝チームは四〇八八ｷﾛを走破。
10（火）●田中正造、足尾鉱毒事件で天皇に直訴。●第一回ノーベル賞授賞式。
11（水）●兵庫県の燐寸工場で火災、女工三人焼死。
12（木）●伊のマルコーニ、大西洋横断無線通信に成功。
13（金）●中江兆民、没。宗教色廃し、「告別式」のみ行う（「告別式」の名称が初めて使われる）。
14（土）●設立を認可された日本興業銀行が定款を発表。
15（日）●韓国で、白銅貨濫発と民間の私鋳銭により貨幣価値が暴落、と新聞に。
16（月）●農商務省、園芸試験場の新設を決定、と新聞に。果樹・野菜の品種改良・栽培普及をめざす。
17（火）●浅草公園の年の市、不景気でにぎわいなし。
18（水）●大阪随一の大阪倶楽部ホテルが全焼。
19（木）●英・独、同盟結成交渉を中止。
20（金）●東京・本郷の中央公会堂で、足尾鉱毒救助演説会。東大生・河上肇が感動して着衣をカンパ。
21（土）●ノルウェーの市町村選で、女性が初めて投票。
22（日）●東京・上野駅で、赤帽に化けた置き引きを逮捕。
23（月）●長崎県香焼炭坑で、賃金問題から坑夫三〇〇人参加の暴動。一人死亡、六人重傷。
24（火）●豪が移民制限法を実施し、有色人種を排斥。
25（水）●内務省、ペスト菌取扱取締規則を公布。
26（木）●英が建設中だったウガンダ鉄道、モンバサ—ビクトリア湖間で開通。
27（金）●東京・数寄屋橋教会の田村直臣牧師らが計画した学生の足尾鉱毒地視察、七〇〇人現地へ。
28（土）●日本最大、一六〇〇ﾄﾝの木造船が進水。
29（日）●東京・越中島に、農商務省工業試験場が落成。
30（月）●北越鉄道、大雪のため長岡—直江津間が不通。
31（火）●年末の兌換券発行高は、約二億一〇〇〇万円。

我楽多市

流行語

星は死して流行語残す

「押し通る」。六月に暗殺された政治家の星亨は、その図々しさや押しの強さから、政界で「押し通る」と呼ばれていた。このことが一般に広がって、図々しい男のことを「押し通る」とか、ずばり「星亨」と呼んだ。

「美的生活」。文芸評論家の高山樗牛が雑誌「太陽」八月号に「美的生活を論ず」を発表、金銭にこだわるにしろ、知識や芸術を愛するにしろ、自分の世界に没頭することが大事だと主張した。これがきっかけで、「美的生活」という言葉が流行した。ただし学生の間では、金がなくて、下宿にじっと引っこんでいることをさす場合が多かった。

「鳩ぽっぽ」。芸者の間で、子どもっぽいことや、色気にとぼしい女性のこと。七月『幼稚園唱歌』が発行され、その中の「鳩ぽっぽ」（鳩ぽっぽ、ポッポポッポと飛んでこい）や「お正月」（もういくつ寝るとお正月）などが人気を呼んだ。それから派生したもので、たんに「ポッポ」とも言った。

CM100年

新聞CM「胃病に胃活　泣く児に乳——胃活」（津村順天堂、現・ツムラ）

▲この広告は、大正時代まで繰り返し新聞に登場、好評を博した。

流行

半年で三〇〇人も 成田山は断食のメッカ

〔千葉発〕成田不動尊（成田山新勝寺）は関東屈指の霊場であるが、江戸時代の名僧・祐天上人が断食して祈願したという故事にならい、同寺に参籠して断食祈願する善男善女その数を知れず、明治の世となっても、この祈願を行うものが後を絶たない。

明治三三年七月から一一月までの半年間の断食祈願者数を調べてみると、男子二六五人、女子三四人の合計二九九人にものぼっている。その断食日数は、長いものでは、三週間にもおよぶものが二七人を数え、二週間のものが九〇人、一週間のもの一四六人、そして一番短い三泊二夜の祈願者が三六人という内訳である。

また祈願の目的は人によってさまざまであるが、男子の場合、自分の病気平癒を祈るものが最も多い。これに比して女子の場合には、わが子の病気平癒を祈願するものが一位を占めているとのことである。

（「報知新聞」一月二〇日）

▶軍艦内での相撲。帆布を土俵とし、周囲にはハンモックを丸めて並べた。海軍では相撲がさかんだった。

日本近代文学館提供

動物

北里柴三郎の血清療法 救世主となった第一号緬羊

日本で初めて、ジフテリア患者に血清療法がほどこされたのは明治二七年一一月二七日、医学博士の北里柴三郎が緬羊血清で、一人の患者を治療したのに始まる。北里氏は伝染病研究所を創立するや、二六年七月、数頭の緬羊を買い入れ、翌月より何度も何度もジフテリア菌を注射して実験を行った。その間にほかの緬羊は発熱、衰弱して倒れたものの、一頭だけは生き残り、人類に注射して免疫にたるほどの血清を得られるにいたった。

この緬羊は「実第一号」と名づけられ、三一年までに二万五六二〇グラムの血清を供給して、幾千もの日本人を九死の間から救い出した。三一年には「第一救世号」と命名され、楽隠居風に世を送らせることになった。「第一救世号」が死んだのは明治三四年一〇月であった。

（石井研堂『明治事物起原』）

子ども

おんぶで歌の稽古 京都の子守り学校

わたし、京都の川岡村（現・京都市西京区）で生まれましたが、八つの時から弟の守りばっかりしてました。子守りは長い時間でっせ。朝負わされたら昼まで。昼、乳飲まして負わされたら晩までどすな。おしめ替えは八つでは無理やから、ようかえへん、そのままですワ。ええ、弟のお尻がただれてきたりすることもありますな。

そしたら学校の鈴木先生がな、ええ歌教えるさけ、土曜の三時から学校へおいでって……ほんで行ったら、子守りが一〇人も二〇人も来てますねン、子を負うて講堂をまわりながら、

「向こうを通るは兵隊さんよ　あれは御国を守る人」や、

「ここは川島冷声院よ　孝子儀平の墓がある」

など、いろいろと歌を教えてくれはりました。

（藤本浩之輔『聞き書き・明治の子ども　遊びと暮らし』）

◀田口米作画「ストライキ腐士」。三月二日の「団団珍聞」に掲載された。この年、司法官の増俸予算削減に対して全国的に反対運動が起こり、三月二五日には東京地裁・区裁の判検事二九人が辞表を提出する騒ぎとなった。

三面記事

蜘蛛の落ちる姿で金儲け

山口県下には吉兆を表す俗諺がたくさん伝えられていて、ほかの地方ではあまり聞かれないものも少なくない。それらを拾い出したところ次のようなものがそろった。

「蜘蛛が丸くなって落ちるのを見れば金儲けができる」

「鯛の目玉を一〇〇〇個集めれば幸福間違いなし」

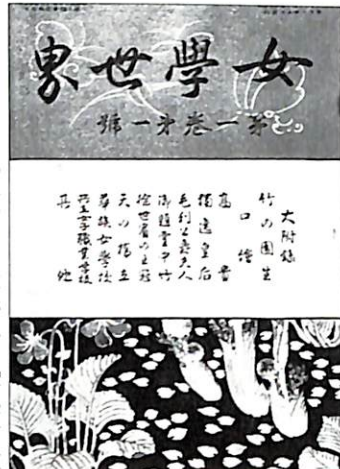
鯛の目玉一〇〇〇個は大変なようだが、瀬戸内海は鯛の本場、その気になればさほどではない。

「外出する時、鍋墨を持って出れば怪我せぬ」

「鳥居の上に石を投げてとまれば良縁に恵まれる」

「新しい履き物を夕方おろせば悪魔に襲われる」

この悪魔は親を襲わないので、夕方おろす時は、親にちょっと足を通してもらえば大丈夫であるという。

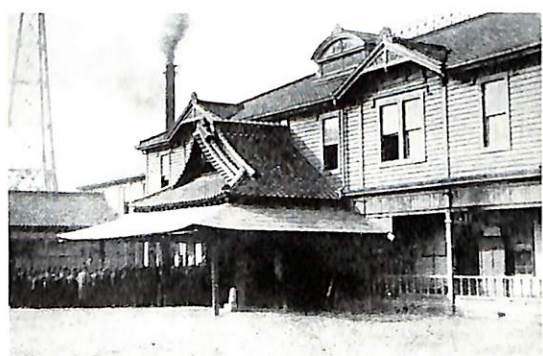
（「風俗画報」三月二五日号）

▶この年一月、博文館から「女学世界」が創刊された。知・徳・情を備えた良妻賢母の育成を目的とした雑誌だった。

風俗

芸者と一晩五〇円 浅草の待合裏事情

最近の調査によれば、浅草公園に「御待合」の看板を掲げているものが五八軒ある。これにも甲乙二派があって、甲派は銘酒屋、碁会所、矢場などを根城とする白首（密淫売婦）が客を連れこむところ。素人婦人の密会にも大いに利用され、中には賭博宿を兼ねているという待合もある。これが合計で二三軒。

乙派に属する三五軒は公園芸妓を相手とし、布団三組くらいを備え、座敷に飾りつけなどして、客があれば女将が腕によりをかけてもてなし、芸者を呼んで遊ばせようというところ。席料は最上等で五、六円、最下等で五〇銭と四つの階級に分かれているが、これにそれぞれ、箱屋への供銭、女中への祝儀、料理の刎（上乗せ分）といろいろつく。女の枕金（売春代）は最上等の芸者で五〇円、中等で三〇円といったところで、このうちの二割が待合の取り分になっている。

（「花月世界」四月号）

◀海軍志望者が参集した海城学校（現・海城学園）の落成式が、六月二三日挙行。

海城学園提供

はやり歌

荒城の月

作詞　土井晩翠
作曲　滝廉太郎

春高楼の花の宴
めぐる盃かげさして
千代の松が枝わけいでし
むかしの光いまいずこ
秋陣営の霜の色
鳴きゆく雁の数見せて
植うるつるぎに照りそいし
むかしの光いまいずこ
いま荒城の夜半の月
替らぬ光たがためぞ
垣に残るはただ葛
松に歌うはただ嵐
天上影は替らねど
栄枯は移る世の姿
写さんとてか今もなお
鳴呼荒城の夜半の月

▶滝廉太郎が、中学校音楽教科書の教材募集に応募し、入選した曲。初出は「中学唱歌」。写真は曲をイメージさせた大分県竹田市の岡城址に建つ廉太郎像。

竹田市提供

はなさかじじい

作詞　石原和三郎
作曲　田村虎蔵

うらのはたけで　ぽちがなく
しょうじきじいさん　ほったれば
おおばん　こばんが　ザク〳〵ザク〳〵
いじわるじいさん　ぽちかりて
うらのはたけを　ほったれば
かわらや　かいがら　ガラ〳〵ガラ〳〵
しょうじきじいさん　うすほって
それでもちを　ついたれば
またぞろこばんが　ザク〳〵ザク〳〵

◀唱歌の言文一致運動に功績を残した田村虎蔵の作曲で、この年発行の『幼年唱歌　初ノ下』（写真）に掲載された。

武蔵野音楽大学提供

交通

船の客を奪え！ 山陽鉄道の大サービス

山陽鉄道は明治二一年、兵庫—明石間が開通、三四年五月に馬関（現・下関）まで延び、全線が開通した。特筆すべきことは全国に先駆けて特急や急行を運転、寝台車や食堂車、それに列車ボーイや赤帽などを最初に設けたことである。特急は神戸—馬関を一一時間余りで走ったが、これは当時では驚異的な速さで、あまり揺れるので、機関士は腹に晒しを巻いて乗務した。

このようなサービスを行ったのは、瀬戸内海航路の船と激しい客の奪い合いをしていたためである。これをまねて官鉄でも、この年一二月から食堂車を導入することになった。

（「山陽新聞」昭和五五年九月三〇日号）

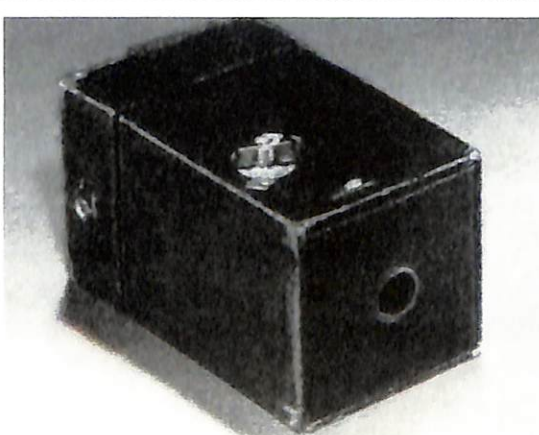
この年の初もの

東京・日比谷大神宮で 神前結婚式スタート

●赤い郵便ポスト　鋳鉄製で俵谷式と呼ばれた。

●浚渫船　イギリスに発注の「椿号」が横浜に入港。

●電気掃除機　イギリスの技師、H・ブースが実用的な電気掃除機を考案。彼は橋梁の建築家で、同時に自転車の設計家でもあった。

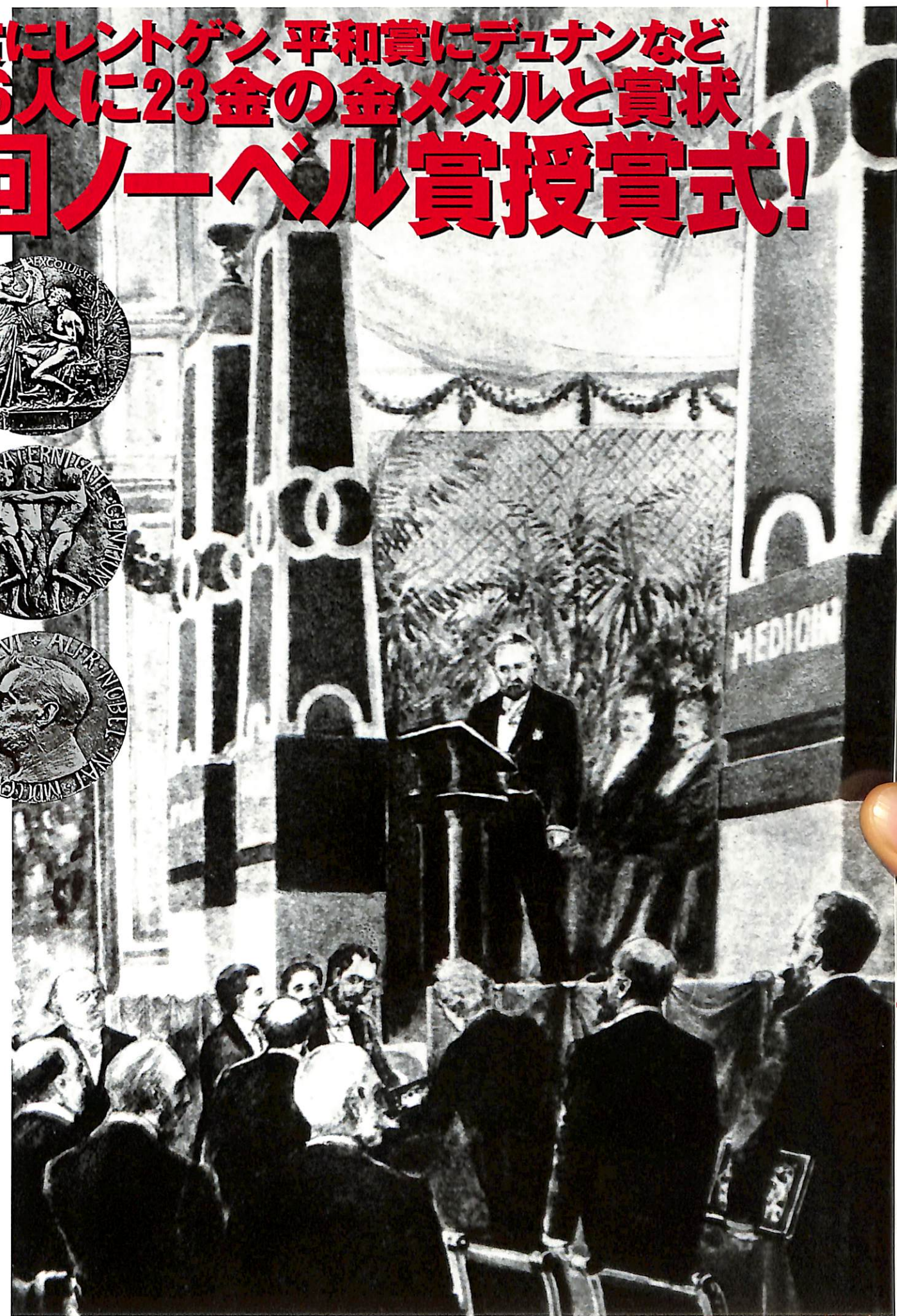
●年金制度　アメリカのカーネギー鉄鋼会社が、社員の老後のために採用。

▶一〇月二四日、イーストマン・コダック社がコダック・カメラを発売。

物理学賞にレントゲン、平和賞にデュナンなど
5部門6人に23金の金メダルと賞状
第1回ノーベル賞授賞式!

NOBEL FOUNDATION／PPS

▲最高の名誉とされるノーベル賞のメダル。直径6.5センチで23金。①ノーベルの横顔が刻まれた各賞（平和賞をのぞく）の表。②物理学賞と化学賞の裏。③生理学・医学賞の裏。④文学賞の表。⑤平和賞の裏。⑥平和賞の表。

AKG　PPS

▶第1回ノーベル賞授賞式の光景。破格の賞金額、世界最初の国際賞のため、ノーベル賞は、まもなく権威ある賞として国際的に認められるようになる。

一九〇一年一二月一〇日、ノーベル賞の第一回授賞式が、スウェーデン・ストックホルムの王立音楽アカデミー大ホールで行われた。国王・オスカール二世が、授賞式への出席を拒否したとはいえ、「世界平和と科学の進歩」を願ったアルフレッド・ノーベルの遺言を二〇世紀に伝える画期的事業がスタートしたのである。

AKG／PPS

▲フォン・ベーリング（生理学・医学賞、ドイツ、1854.3.15〜1917.3.31）。血清療法の研究で受賞。

Popperfoto／ユニフォト・プレス

▲ファント・ホフ（化学賞、オランダ、1852.8.30〜1911.3.1）。化学熱力学の法則および溶液の浸透圧の発見で受賞。

CORBIS-BETTMANN／PPS

▲ウィルヘルム・レントゲン（物理学賞、ドイツ、1845.3.27〜1923.2.10）。X線発見の業績により受賞。

AKG／PPS

▲フレデリック・パシー（平和賞、フランス、1822.5.20〜1912.6.12）。「国際永久平和同盟」設立など平和活動で受賞。

Popperfoto／ユニフォト・プレス

▲アンリ・デュナン（平和賞、スイス、1828.5.8〜1910.10.30）。国際赤十字を創始した業績で受賞。

AKG／PPS

▲シュリ・プリュドム（文学賞、フランス、1839.3.16〜1907.9.6）。叙情的な作風で、孤独な精神の苦悩などを追究した。

五部門六人に贈られた二三金のメダルと賞状

一九〇一年一二月一〇日、ノーベル賞授賞式会場の正面奥には、ノーベル賞の生みの親、ダイナマイトの発明で巨大な富を築いた化学者、アルフレッド・ノーベルの胸像が飾られ、それを背にして左右にはノーベル財団関係者らが席を占めていた。

この日、スウェーデン国王・オスカール二世（七二）が、多額の賞金を外国人に授与することに不満を抱き、出席を拒否するというハプニングがあった。会場も空席が目立ち、関係者を動員することで埋められた。ノーベル賞は、波乱のうちにスタートしたのである。

午後四時三〇分、ノーベル財団理事長であるスウェーデン首相のグスタフ・ボストレームのスピーチに続き、受賞者が一人ずつ紹介され、金メダルと賞状が渡された。メダルは直径六・五チセンで、二三金。メダルの表側はノーベルの横顔のレリーフ、裏側には、「人生が技芸の発明によって美しくなるのを快く眺めんことを」というノーベルの言葉が彫られており、デザインはスウェーデンの彫刻家、エリク・リンドベリによるものだった。

第一回の受賞者は五部門六人だった。

物理学賞は、X線発見で不朽の名をとどめたドイツのウィルヘルム・レントゲン（五六）。化学賞は、化学熱力学の法則および溶液の浸透圧（しんとうあつ）を発見したオランダのJ・H・ファント・ホフ（四九）。生理学・医学賞は、血清療法、特にジフテリアの研究で功績を残したドイツのE・フォン・ベーリング（四七）が受賞した。

また文学賞には『詩抄』『心の日記』などの作品を著したフランスの詩人、シュリ・プリュドム（六二）が輝いた。彼は授賞式に欠席したが、当時、世界にその名をはせていたロシアの作家、トルストイ（七三）を無視したことに抗議した、四二人のスウェーデンの作家や俳優の非難を押しのけての受賞だった。

平和賞は二人に贈られた。一人は「赤い十字の父」と呼ばれるスイスのアンリ・デュナン（七三）。彼は一八六四年、ジュネーブで「赤十字」を創立した平和運動家。もう一人はフランスのフレデリック・パシー（七九）で、六七年、「国際永久平和同盟」を設立、八一年には国会議員として、イギリスの平和運動家、W・クリーマーと国際議員団平和会議を作ったことが評価されての受賞であった。

授賞式では、スウェーデン・アカデミーの事務局長だった詩人のカール・ダービッド・アフ・ビーガンが「ノーベル財団の宴の日」と題した詩を朗読した。

「スウェーデンの肩に／かくも重く／ふりかかりしこの課題／我求めたことなし／世界がスウェーデンの〝厳選作業〟を見守る時／責任ははてしなく重し」

それは、彼らのノーベル賞に対する意気ごみを象徴するものであった。

国別の受賞者数ではアメリカが断然トップ

ノーベル賞を制定したスウェーデンのアルフレッド・ノーベルは、一八六六年、爆発しやすく取り扱いが不便だった液状のニトログリセリンを珪藻土（けいそうど）にしみこませることで、固形爆薬のダイナマイトを発明した。さらに七五年の混合無煙火薬など次々に発明をし、生涯の特許数は三五五件にもおよんでいた。ノーベル賞は、彼の死後、世界の平和と科学の進歩を念願した遺言に基づき、その遺産を基金として設立されたものだが、ノーベルがその遺言に署名したのは一八九六年一一月一〇日、イタリアのサン・レモの別荘で世を去る一年前のことであった。

「私の全遺産は、私の遺言執行者によって安全な有価証券に投資された資本で基金を設立し、その利子を毎年、その前年に人類のために最大の貢献をした人たちに、賞として分配されるものとする」

WPS

▲物理学賞を受賞したレントゲンの、陰極線の研究装置。レントゲンは、先駆者たちの実験を繰り返すことで、X線の発見にたどりついた。

外から見たNIPPON

滞日一八年のベルギー公使夫人が見た"日本人の婚姻観"

佐伯　修

「午前九時に皇后陛下に拝謁した。陛下はとてもお優しい態度で、丁寧に私を遇して下さった。拝謁の終ったあと、私のために午餐を賜り、閑院宮両殿下と山階宮両殿下もその席に列せられた。公使夫人が夫の同伴なしに皇居で午餐を頂いたのは今回が初めてなので、私はこの上なく名誉なことだと思った」（長岡祥三訳『ベルギー公使夫人の明治日記』より）

この年四月九日、駐日ベルギー公使夫人、エレオノーラ・メアリー・ダヌタン（一八五八～一九三五）は、一時帰国に先立って皇后に拝謁した。彼女は、前日の八日には外務省で開かれた送別晩餐会に出席、前年の明治三三年に起こった「義和団事件」（北清事変）の際、北京で籠城した柴五郎陸軍中佐らとも会見している。

なお、彼女は夫、アルベール・ジャン・ルイ・マリー・ダヌタン男爵が、駐日弁理公使を命じられた明治二六年に、夫とともに来日、その後特命全権公使となった夫が、明治四三年、東京で在職中のまま死去するまで、足かけ一八年間日本に暮らした。

さて、彼女は、翌明治三五年暮れに、後から一時帰国していた夫とともに日本へ戻ってきた。同年一二月二七日の日記から。

「今日、私は日本人の年取った女中と話していたが、それはちょっと面白い話だった。日本では法律上離婚は容易だが、妻が夫を離婚するというのは極めて異例のことである。なぜなら夫のための法律は決して妻のための法律ではないからだ。しかし、年取ったサクの場合は彼女のほうが先手を取ったのであって、しっかり者のサクは煩しくて不貞な亭主を厄介払いするのに成功したのである。（中略）『それでお前は幸せなの？　サク』と私は訊いた。『ええ、今は奥様といればとても幸せです。だけど本当に前はひどいものでした。私の亭主はとても悪い男です。芸者にたくさんのお金を使いました。でも――』。ここでちょっと残念そうな溜息が洩れた。『彼は男前のよい人でした』。そして彼女は一人でうなずいたが、そのとき哀れな棄てられた『古い妻』の淳朴な顔の上を、誇りと満足の入れ混った奇妙な微笑が横切ったので、私はその表情を見て笑わずにはいられなかった。だが私は彼女がどうやって邪魔者から逃れたのか終始疑問に思っていた」

また、エレオノーラは、公使館の使用人らが、婚礼をあげながら婚姻の届けを出産直前まで平気で延ばすといった、結婚の法手続きに関するルーズさも指摘している。

中央公論社提供

▲日本を舞台にした小説なども書く。

遺言は、ヨーロッパの八ヵ国に散在していた不動産の処分が完了した、一八九七年一月に開封された。そして、遺言執行人として信頼の厚かったラグナル・ソールマンとノーベルの甥・エマニエルの努力によって、ノーベル財団が発足。一九〇〇年六月二九日には、財団の定款と授賞対象者などに関する規定が発布されるにいたったのである。

遺産総額は約三一五八万クローナ、現在の価値で換算すると約一二〇〇億円を基金に、その利息の六七・五パーセントが賞金にあてられる。第一回目の賞金は総額で一五万八〇〇〇クローナ。それは六人に分け与えられたが、その金額は、当時の大学教授の三〇年分の給料に相当したという。

選考は、推薦依頼状を各国に送り、ノーベル賞委員会が、ノーベルの遺言にある「人類のために最大の貢献をした人」を独自の判断でしぼっていく。そして物理学賞、化学賞は王立科学アカデミー、生理学・医学賞はカロリンスカ研究所、文学賞はスウェーデン・アカデミー、平和賞はノルウェー国会がそれぞれ最終決定を行うことになっている。

「世界にはさまざまな賞がありますが、ノーベル賞ほどインパクトを与えているものはありません。とりわけ一九五〇年代以後、サイエンスの分野では、世界中の研究者がノーベル賞をめざして激しく競争し、新発見に熱い情熱を注いでいます。賞金の魅力もありますが、それ以上に、神話ではない真の功労者を認知するという高潔さと権威は、いくら賞賛してもしすぎることはありません」

こう語るのは、千葉大学の前学長、丸山工作氏である。

ちなみに、ノーベル賞が創始されてからこの九七年間に六六一の個人と団体が受賞。国別ではアメリカが断然トップの二二五。以下、イギリス、ドイツ、フランスの順で、日本は一九四九年、物理学賞の湯川秀樹、一九九四年の文学賞に輝いた大江健三郎ら八人が受賞している。

なお、メイン授賞式会場は一九三六年にストックホルムのコンサートホールに移り、一九六九年にはノーベル経済学賞が新設された。

アルフレッド・ノーベル（1833～1896）
スウェーデンの化学者、産業資本家。一八六六年ダイナマイトを発明、また三五五件の特許を得る。彼の遺言と遺産で、ノーベル賞が創設された。

AKG　PPS

▶アルフレッド・ノーベル。若い頃、爆薬の専門家である父の仕事を手伝う。

往きて還らぬ

◀2月3日　福沢諭吉（66）
明治期の啓蒙思想家。近代化の最大の功労者。慶応四年（一八六八）慶応義塾開設。著書『学問のすゝめ』は人間平等宣言の主張で、ベストセラーに。

▲1月3日　三野村利助（57）
実業家。三野村利左衛門の婿養子で、明治10年三井銀行総長代理副長。15年の日銀創立と同時に理事に就任。

▲1月20日　伊藤圭介（97）
植物学者。長崎でシーボルトに学ぶ。リンネの分類法を紹介。明治14年東大教授、21年日本初の理学博士となる。

▲1月27日　G・ヴェルディ（87）
イタリアを代表する作曲家の一人で、ロマン派オペラの名曲を残す。代表作に「リゴレット」「椿姫」など。

▲2月18日　早矢仕有的（63）
実業家。明治元年横浜に丸屋書店（現・丸善）創業。外国書籍輸入の端を開く。ハヤシライスの元祖でも知られる。

▲3月13日　B・ハリソン（67）
米の政治家。弁護士を経て政界に入り1889年第23代大統領に就任。翌年資本家保護のマッキンリー関税法制定。

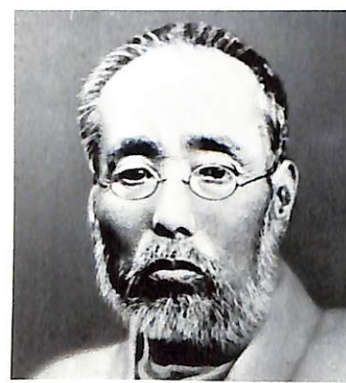
▲5月24日　渡辺洪基（53）
政治家。明治4年岩倉遣外使節団の一員として欧米視察。12年学習院院長。その後東京府知事、帝大総長を歴任。

▲5月25日　中島俊子（40）
婦人運動家。明治15年自由民権運動に加わり男女同権を説く。18年中島信行と結婚、20年運動から手を引いた。

▲6月1日　大橋乙羽（31）
小説家。明治22年「こぼれ松葉」発表。27年博文館主人・大橋佐平の女婿となり同社発展に尽力。欧米漫遊後、病死。

▶9月9日　H・T・ロートレック（36）
仏の画家。パリのキャバレーやカフェに出入りして、パリ風俗とその哀歓を正確な描線で描き出した。石版によるポスター「ムーラン・ルージュ」は、よく知られている（写真右端）。

▲10月7日　中上川彦次郎（47）
実業家。福沢諭吉の甥。時事新報社・山陽鉄道社長を経て、明治24年三井銀行理事。藤原あきは三女。

▲11月7日　李鴻章（78）
清の政治家。1870年直隷総督となり北洋陸海軍創設。日清戦争の講和会議では清国代表として、下関条約を結ぶ。

▲12月13日　中江兆民（54）
自由民権思想家。明治7年仏学塾を開く。ルソーなどの西欧近代思想を紹介。名著『三酔人経綸問答』がある。

第82号 10月6日(火)発売 定価560円
毎週火曜日発売 講談社 本体533円

1902［明治35年］

●特集
〝仏教東漸〟の路を求めて 大谷光瑞、中央アジア探検を敢行!／雪中行軍で一九九人が死亡 八甲田山「死の彷徨」!／「糸瓜咲て痰のつまりし仏かな」 病床六年、正岡子規「仰臥漫録」の日々／ロシアの中国、朝鮮への進出を背景に国運を賭けて「日英同盟」締結!

●ニュース・ファイル
フォト+日録で再現する365日…戦艦「三笠」竣工(3月1日)／魯迅、日本留学(3月)／ボーア戦争終結(5月31日)／徳川慶喜、公爵親授(6月3日)／伊豆諸島の鳥島、大爆発(8月7日)／早稲田大学開校式(10月19日)／米国で、ぬいぐるみ「テディ・ベア」発売(11月18日)／教科書疑獄が発覚(12月17日)

●人物クローズアップ
黒岩涙香、「噫無情」連載開始!

●決定的瞬間
バッファロー・ビル、野牛保護官に変身

●美の出会い
建築家・伊東忠太、「雲崗石窟」発見!

●女たちの肖像…吉岡弥生の〝合理的〟な女医教育／勝者・敗者…藤井実、一〇〇㍍世界新の真相／証言・あの日この日…中里介山、尾崎紅葉／「現場」を歩く…神戸、トップ商社・鈴木商店の破綻／20世紀博物館…北海道開拓記念館(北海道)／外から見たNIPPON…ラフカディオ・ハーンと〝旧い日本〟

●ベストセラー…森鷗外訳『即興詩人』／スターと名場面…明治のアニメ「写し絵」／モノ語り'02…「ガスマントル」

■既刊好評発売中(既刊81冊! 1910・1920・1930・1940・1950・1960・1970・1980年代がそろいました)

一九二〇年代
第62号1921[大正10年]　第63号1922[大正11年]　第28号1923[大正12年]　第64号1924[大正13年]　第65号1925[大正14年]　第66号1926[昭和元年]　第67号1927[昭和2年]　第68号1928[昭和3年]　第69号1929[昭和4年]　第70号1930[昭和5年]

一九三〇年代
第43号1931[昭和6年]　第44号1932[昭和7年]　第45号1933[昭和8年]　第46号1934[昭和9年]　第47号1935[昭和10年]　第48号1936[昭和11年]　第49号1937[昭和12年]　第50号1938[昭和13年]　第51号1939[昭和14年]　第52号1940[昭和15年]

一九四〇年代
第19号1941[昭和16年]　第20号1942[昭和17年]　第21号1943[昭和18年]　第22号1944[昭和19年]　第3号1945[昭和20年]　第23号1946[昭和21年]　第24号1947[昭和22年]　第25号1948[昭和23年]　第26号1949[昭和24年]　第27号1950[昭和25年]

一九五〇年代
第36号1951[昭和26年]　第37号1952[昭和27年]　第38号1953[昭和28年]　第39号1954[昭和29年]　第40号1955[昭和30年]　第41号1956[昭和31年]　第42号1957[昭和32年]　第6号1958[昭和33年]　創刊号1959[昭和34年]　第11号1960[昭和35年]

一九一〇年代
第76号1916[大正5年]　第77号1917[大正6年]　第78号1918[大正7年]　第79号1919[大正8年]　最新刊 第80号1920[大正9年]

■今後の刊行予定
▶第83号1903[明治36年]10月13日発売
ライト兄弟、世紀の12秒間!●藤村操の〝明治の青春〟●「食道楽」のレシピ700●大阪「内国勧業博」
▶第84号1904[明治37年]10月20日発売
旅順攻略戦136日●日本軍〝脚気大論争〟●日本初の百貨店「三越」誕生!●サイ・ヤング、初の完全試合
▶第85号1905[明治38年]10月27日発売
日本海海戦の大勝利!●「日比谷焼き打ち事件」●漱石「吾輩は猫である」●戦艦「ポチョムキン」の叛乱
▶第86号1906[明治39年]11月2日発売
「満鉄」が育てた〝頭脳集団〟●「松山収容所」抑留記●「成金」第1号・鈴久●「ドレフュス事件」、無罪確定!
▶第87号1907[明治40年]11月10日発売
オーレル・スタイン、敦煌を探検●「華族令」改正●明治期最大「足尾暴動」!●「ハーグ密使事件」の暗転!
▶第88号1908[明治41年]11月17日発売
清朝最後の独裁者・西太后死す!●第1回ブラジル移民●「味の素」製造開始!●「ツングースカ大爆発」

バックナンバーは、お近くの書店でお求めください。創刊号のみ282円(税別)です。直接弊社にご注文の場合は、冊数に関係なく、送料200円のご負担となります。なお、代金と送料は先にお送りください。申込先　講談社読者サービス係　電話03-5395-3676

ミニ事典
1901年のキーワード

カーネギー財団
アメリカの鉄鋼王・カーネギーが、慈善事業を行う目的で組織した財団。一月四日設立。世界一の鉄鋼会社・カーネギー製鋼を、二月二五日、金融王・モルガンに売却して得た資金などをもとに、三億五〇〇〇万ドルを基金とした。教育研究機関・国際平和機関の設立を援助するなど、「富は神のもの」とするカーネギーの信念を、幅広く実現した。

CORBIS・BETTMANN／PPS
▶一代で財をなしたカーネギー。

言文一致運動
話し言葉と書き言葉を一致させようという運動。この頃の日本の文章界は、漢文・和文や和漢混淆の文語文が支配的だったが、欧米諸国の先進性は簡潔な文章表現にあるとの認識が運動の推進力になった。一月二六日、井上哲次郎・菊池大麓・白鳥庫吉・山脇房子らが公開演説会を行ったのをきっかけに、運動は急速に盛り上がった。この年、小学校教育が言文一致の方針となり、四一年頃には小説のすべてが口語体になった。

『大日本史料』
明治以来、国家事業として行われ、今日も編纂刊行が続いている日本史の編年史料集。明治二年、天皇の御沙汰書が下されたのを契機に実現に動き、「六国史」後の仁和三年(八八七)から明治維新までの間の諸事件を記した史料を、年月日順にまとめる編纂方法を決定。明治二一年には東京帝大に編年史編纂掛が設置され(現・東大史料編纂所)、この年二月二八日の『建武中興』を第一回として刊行が開始された。

労働者大懇親会
大衆キャンペーンと三面記事で売る「二六新報」が、四月三日の神武天皇祭に全国の労働者に呼びかけて行った集会。メーデーの先駆けと言われる。花見を兼ねたこともあって、東京・向島の会場は二万人の労働者が詰めかけ大にぎわい。一枚一〇銭の入場券に、五〇銭のプレミアムがついたほど。後、各地の労働団体、新聞による同種の催しが続出した。

「風俗画報」
▲あまりの盛況に警察は大あわて、翌年は禁止された。

東亜同文書院
朝鮮・中国など、「大陸」で活躍する日本人を養成するための、日本初の海外高等教育機関。五月二六日設立。会長・近衛篤麿。前年五月に設立した南京同文書院が「義和団事件」で頓挫したため、場所を上海に移して開校。政治科・商務科をおき、綱領に「支那及び朝鮮の改善を助成す」とあった。第二次世界大戦後の廃校までに四千数百名の卒業生を輩出。そのほとんどが公費留学生だった。

理想団
思想の交流を通して社会改良をめざそうとした団体。新聞「万朝報」の発行人・黒岩周六(涙香)、社員の内村鑑三・幸徳秋水らによって組織された。七月二日設立。具体的目標は曖昧だったが、近代化の過程で発生したさまざまな矛盾を背景に、約三一〇〇人もの人々が呼びかけにこたえ、各地に支部が結成された。この団体への参加を契機に社会運動・労働運動に目覚めた人々は多かった。

日本広告株式会社
日本初の本格的広告代理店。後の電通。七月一日、ジャーナリストの光永星郎が東京・京橋で設立。新聞社に対するニュース配信業・広告代理業の併営を志し、同時に電報通信社も創立した。明治四〇年、二社を統合して日本電報通信社を設立、昭和一一年、国策により通信部が抜け、広告代理業専業となり、第二次大戦後の高度成長期を経て、世界一の総合広告企業へ成長した。

七月十日 開業
日本廣告株式會社

▶日本広告株式会社の開業広告。「意匠文案翻訳等は総て無料なり」とある。

アメリカバイソン
北米に生息するウシ科の動物。前半身がよく発達し、長毛が密生。一八世紀までは数千万頭以上が生息、北米原住民と共存していたが、白人の入植者が増加するにつれて減少。マッキンリー米大統領が保護区建設を表明したこの年の八月三日には、絶滅寸前だった。その後、保護が功を奏し五万頭にまで回復している。

棍棒外交
ルーズベルト米副大統領が、九月二日、ミネソタ州で行った演説で示した外交政策の基本。「穏やかに話し、太い棍棒を持っていれば、遠くまで行ける」とした。マッキンリー大統領が暗殺されたため大統領になったルーズベルトは、この「棍棒外交」を展開。パナマ運河の獲得、カリブ海地域での勢力強化など、強力な軍備を背景に強引な外交を行う一方で、日露戦争の調停、モロッコ紛争の解決につくすなどしてノーベル平和賞を受賞した。

ワンダーフォーゲル
徒歩による簡素な山歩きなどを通じて、意志強固で品行方正な精神を養おうという青年運動。ワンダーフォーゲルは、ドイツ語で〝渡り鳥〟の意味。一一月四日、ベルリンの学生・フィッシャーを中心に推進組織ができ、ドイツ帝国主義の興隆を背景に、国民的運動として大きな広がりを見せた。

白豪主義
オーストラリアにおける白人優先主義。一九世紀のゴールドラッシュにおける中国人労働者の大量流入、サトウキビ農園へのカナカ族導入などを契機にあらわになり、この年一月に成立したオーストラリア連邦は、一二月二四日、移民制限法を実施して有色人種排斥を明確にした。

一九二九年号・五ページ、「東京の歌いまむかし」中、「大江戸出世小唄」作詞者の「藤田まこと」は、「藤田まさと」の誤りでしたので訂正いたします。
「日録20世紀」編集部

週刊YEAR BOOK／日録20世紀 1901
CONTENTS

●編集
講談社総合編集局
アート・ディレクター　山口至剛
表紙デザイン　山口至剛デザイン室(茂村巨利)+渡邉裕一
本文レイアウト　デザインオフィス八起き
編集協力　(有)エービーシープレス　(株)カマル社　(株)コミュニケーションハウス・ケースリー　シド・プロ　(有)マックス　(有)マライカ
飯田守　小原伸夫　鍵和田良輔　菊地美優貴　小松邦宏　張替政展
藤森雅弘　森邦久　結城順一　吉田忠正

●写真協力
飯沼信子　奥村健太郎　川上富司　楠田守　佐々木烈　但馬一憲
津田俊治　出口保夫　松本正　山口隆司　吉野孝雄
Ullstein　AKG　オリオン・プレス　CAMERA PRESS　郷土出版社　CORBIS・BETTMANN　中央公論社　デジタルハウス　Topham　日刊自動車新聞社　ノーボスチ通信社　HULTON GETTY　PPS　bpk　平凡社　北海道新聞社　Popperfoto　毎日新聞社　ユニフォト・プレス　ROGER-VIOLLET　WPS
中村屋
雲龍寺　大分市歴史資料館　海城学園　北原コレクション　京都府立総合資料館　呉市企画部海事博物館推進室　慶応義塾福澤研究センター　交通博物館　国立国会図書館　佐野市郷土博物館　三康図書館　自転車文化センター　静嘉堂文庫美術館　高峰譲吉博士ゆかりの会　竹田市　中国文化省　東京芸術大学美術館　東京大学法学部附属明治新聞雑誌文庫　那須オルゴール美術館　日仏会館図書室　日本近代音楽館　日本近代文学館　日本女子大学成瀬記念館　野口英世記念会　NOBEL FOUNDATION　フランス国立美術館連合　ブリヂストン美術館　北海道大学附属図書館　武蔵野音楽大学　ライオン史料センター

雑誌 23712-10/13
Ⓛ-2001/1/1

T1123712100567

印刷 凸版印刷株式会社 製本 大村製本株式会社